



SMG/APP 社 グリーンウォッシュの裏側



調査報告書 アイズ・オン・ザ・フォレスト

2011年12月発行
(WWFジャパン仮訳)

アイズ・オン・ザ・フォレストは、スマトラ島リアウ州の環境 NGO、
フレンズ・オブ・ジ・アーツのリアウ州オフィス、ジカラハリ、リアウ州森林
レスキュー・ネットワーク、WWF インドネシア・リアウプログラムの連合体。
スマトラ島リアウ州に残された自然林の状況を監視し、世界中に情報発信を行なっています。
詳細は、<http://www.eyesontheforest.or.id/> をご覧ください。

1. 背景

中国、上海に本社を置くシナール・マス・グループのアジア・パルプ・アンド・ペーパー社（以下、SMG/APP社）は、1984年にスマトラ島のリアウ州で最初のパルプ工場の操業を始めた¹。この最初の工場、インダキアット・パルプ・アンド・ペーパーは、インドネシアで初めての「巨大パルプ工場」であり、年間10万5000トンの生産能力があった。1994年、同社は2つ目のパルプ工場、ロンタル・パピルス・パルプ・アンド・ペーパーの操業を隣のジャンビ州で開始した。どちらの工場も、もっぱら自然林の皆伐による混交熱帯広葉樹材（MTH）でパルプ生産をしていた。そして拡大し続けた。

これが顧客、債権者、科学者、市民社会が1999年以降、SMG/APP社に対して紙パルプの生産に自然林を伐採した木材を使わないよう^{2, 3, 4, 5, 6, 7}、そして以下の2つの方針を実行するよう求めてきた理由である。

1. FSC（森林管理協議会）の定める「原則9. 際立った意義または決定的な重要性があると考えられる環境的・社会的価値として定義される『保護価値の高い森林（HCVF）』の保存」⁸に従った施業¹
2. すでに森林が失われている地域において、責任ある、かつ持続可能な植林による供給量が十分に確保されるまで、パルプ生産能力の拡大や新しいパルプ工場の建設を行わないこと。

SMG/APP社は、これらの要求に応じることを拒否している。そしてパルプの生産能力を拡大し、自然の熱帯林をパルプへと変え、泥炭地からの排水を続けていることは、アイズ・オン・ザ・フォレストや他の多くの団体が詳細に報告している通りである。2010年までに、スマトラ島の同社のパルプ生産能力の合計は、少なくとも年間270万トンに拡大した。さらに、2005年に年間生産量100万トンのパルプ工場を中国に建設している⁹。同社は、どの工場においても十分な植林木による原料供給を確保していないが、近々インドネシア国内に少なくとも2つの新しいパルプ工場を建設することを計画している。

SMG/APP社がリアウ州とジャンビ州で操業している間に、この2州およびスマトラ島内の自然林の面積は島全体の30%以下に減少し、島内のトラ、ゾウ、オランウータンは、人間と野生動物との軋轢の深刻化、生息域の減少により容易になった密猟により、絶滅に近づいている。また、深い泥炭地からの排水を続けることで、数千年にわたって地中に蓄えられてきた炭素が排出されてきた¹⁰。スマトラ島内の利用しやすい自然林は、ほぼなくなってきたため、同社は今、カリマンタンやパプアの自然林や泥炭地を標的にし始めている。

シナール・マス・グループの製紙会社による破壊は、市民社会や顧客からの世界的な強い批判を生んだ。同社の反応は昔から変わらず、これまで通りの操業を続け、スマトラの森林破壊によって得た莫大な資金を世界的なグリーンウォッシュ・キャンペーンに投じた。

2006年、SMG/APP社は、ニューヨーク・タイムズとイギリスのタイムズ紙に全面広告を掲載した。「APPの約束：コンプライアンスを超えた保全活動」である。これは最初の大がかりな広報活動であり、自らを森林と野生生物を保護する責任ある企業であると偽った表現をした。WWFインドネシアによる反論の一つひとつが、同社の虚偽表示についての詳細を説明している¹¹。

5年後の現在、SMG/APP社は、同様の虚偽の主張を、いくつかの新たな工夫を加えて繰り返し続けている。どれも操業の最大の基盤となっている自然の熱帯林の破壊や泥炭地からの排水を続けていることを隠そうとするものである。今日の同社の広報活動への取り組みは拡大しており、これまで以上に積極的にメディアを利用している。種々さまざまな広報担当、個人、表面的には独立したNGOを利用して、同社が主張する環境への取り組みを宣伝させている。その中には、Cohn & Wolfe¹²、Environmental Resource Management (ERM)¹³、Alan Oxley氏と彼の関わるWorld Growth および ITS Global^{14, 15, 16}、Mazars¹⁷、Carbon Conservation¹⁸、Patrick Moore氏と氏の関わるGreenspirit Strategies¹⁹、Bastoni氏と彼の関わるスマトラ保全基金（YPHS）²⁰、インドネシア紙パルプ協会（APKI）²¹、Allyn Media²²がある。また同社はCNNやSKY TV、その他の国際的な放送局を使って、世界的に広告を出している。

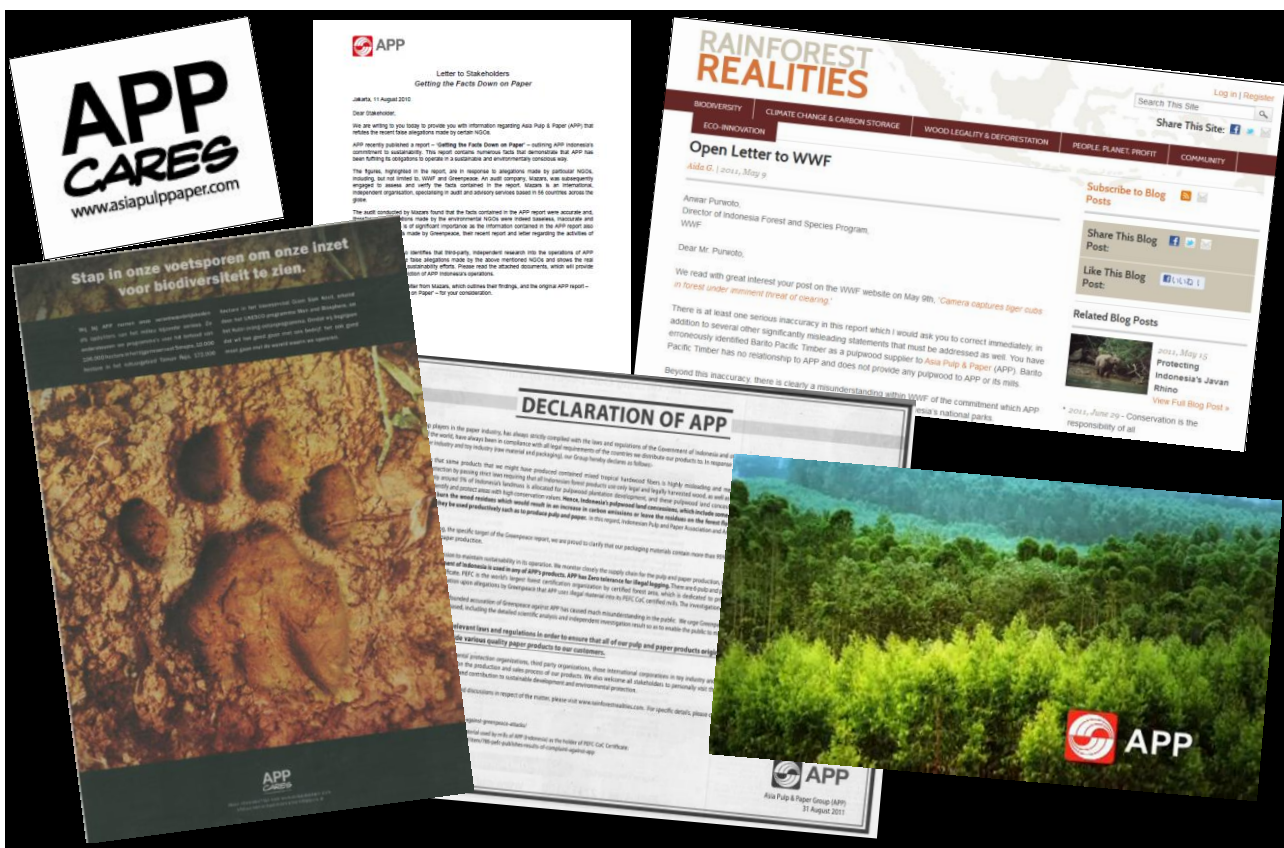
この報告書で、アイズ・オン・ザ・フォレストは、SMG/APP社の広報活動にある主張についての調査を行う。同社の事業は現場において何らかの改善があったのか？世界で最も多様性に富んだ自然の熱帯林や野生生物、世界規模の気候変動問題に対する同社による影響は減少したのか？

¹実際には、自然林の皆伐に先立ち、保護価値の高い森林を確認するために「インドネシア版HCVツールキット¹」を用いた独立した透明性のある評価を委託し、そのすべてを保護し維持することである。

その答えは簡単だ。「NO」である。SMG/APP 社は、深い泥炭地からの排水や自然林の皆伐を続け、その悪影響は事業の規模とともに拡大している。

この報告書が、SMG/APP 社の広報活動の内容と現場で起きている事実が異なるということ、政府や企業、消費者が理解するのに役立つよう願っている。そしてこの問題に関わることで、世界で最も多様性に富んだ自然の熱帯林の消滅や野生生物の絶滅、気候変動への甚大な影響の一因とならないよう、同社との関係を絶つことを選んだ多くの責任ある企業たちに加わることを願う。

事実は現場にあり、情報は開かれている。そして誰もが見て確認することができる。スマトラに来てください。そしてもし SMG/APP 社のへりに乗ることを決めたのなら、必ずあなたがパイロットにどこに行くかを伝えてください。



2011年にさまざまな国で行われたインターネット、テレビ、印刷物による SMG/APP 社の広告。

左上から時計回りに、

2010年にアメリカで商標登録された「APPは配慮しています www.asiapulppaper.com」²³

2010年の「ステークホルダーへの手紙：事実の記載」²⁴

APPのウェブサイト「Rainforest Realities」で2011年5月9日に掲載された「WWFへの公開書簡」²⁵

ドイツ、フランス、オランダなどで今年放送されたテレビCM「APP-植林」²⁶

2011年8月31日にサウスチャイナ・モーニング・ポスト（南華早報）に掲載された「APPの宣言」

2011年3月31日にオランダの新聞に掲載された同社の広告（イタリア、フランス、アメリカなどでも掲載）。

2. 顧客がSMG/APP社について知るべきこと

2.1. SMG/APP社は、大規模な自然林の破壊を継続している

2011年、SMG/APP社は、取引先に対して「2015年末までにパルプ原料の100%を持続可能な植林資源から調達する^{27, 28}」と誓約した。

この誓約の際、SMG/APP社は、スマトラで容赦ない大規模な自然の熱帯林の皆伐を続けているという否定しようのない事実を認めた。市民社会は、その結果生じた深刻な生物多様性の喪失や膨大な温室効果ガスの排出などの多くの問題を何年にもわたって記録してきた。とりわけアイズ・オン・ザ・フォレストがそれを行ってきた²⁹。

SMG/APP社は、2010年までにリアウ州とジャンピ州において200万ヘクタールの自然林の消失を引き起こしたと、アイズ・オン・ザ・フォレストは推計している。この値は、同社によるデータ³⁰、研究者³¹やNGOの報告書に基づいている（添付1を参照）。

2.2. SMG/APP社の持続可能性の「約束」は、信頼できないことが繰り返し明らかになっている

1990年代、SMG/APP社のインダキアット工場は、2004年までに植林木によって「実質的にすべての」工場の木材需要を満たすことができると繰り返し発表した³²。

2004年初め、この約束を果たせなかったSMG/APP社は、その「100%植林」の期限を2007年に先延ばしにした³³。

2007年、再びこの約束を果たせなかったSMG/APP社は、その「100%植林」の期限を2009年にさらに先延ばしにした³⁴。

2009年までにSMG/APP社は、またしても購入者への約束を破った。2011年、同社はもう一度「100%植林」の期限を2015年にさらに先延ばしにした³⁵。

アイズ・オン・ザ・フォレストは、SMG/APP社が2015年の期限を達成するとは信じていない。同社は現在ある工場だけでなく、発表された少なくとも2つの新しいパルプ工場への木材供給も必要になるため、自然林の皆伐を続けなければならないだろう。

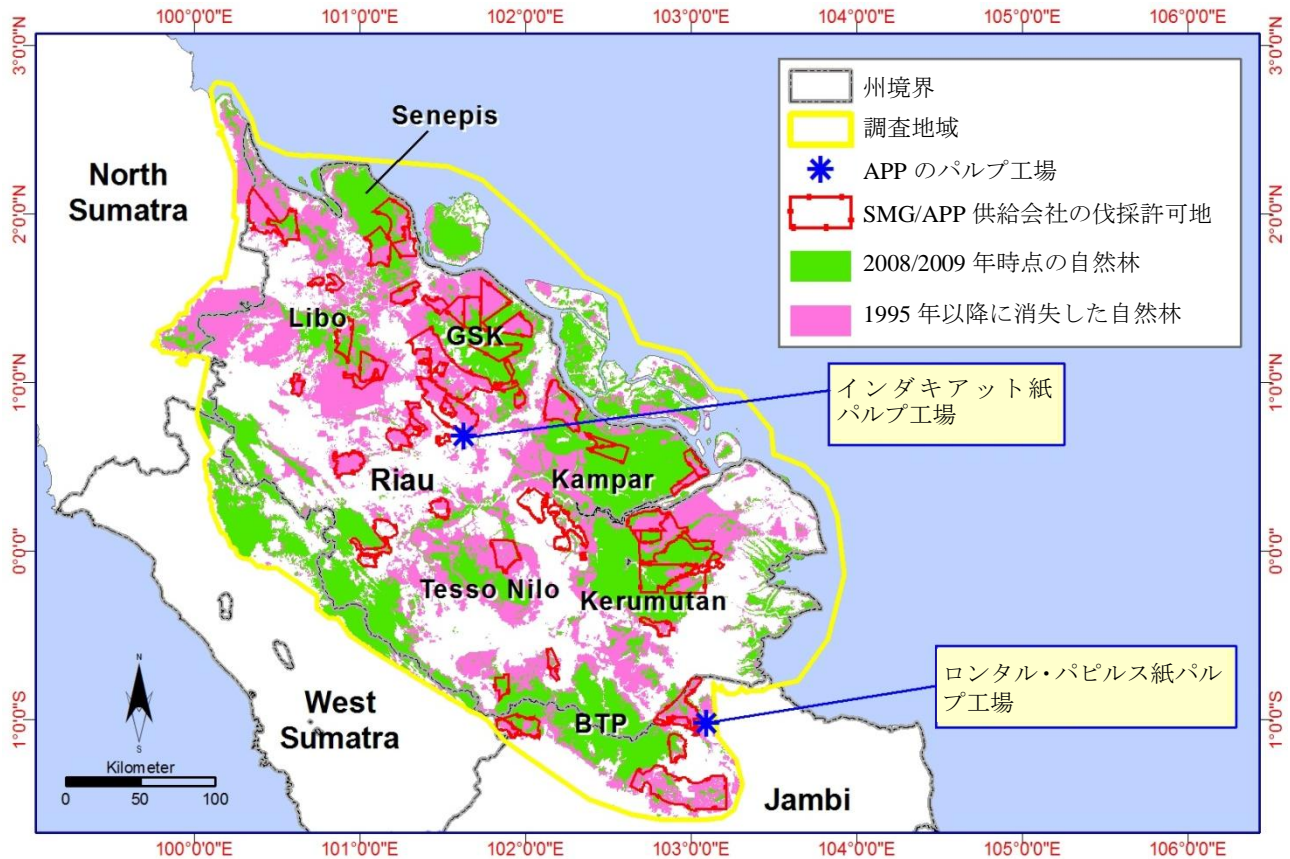
これまでの植林開発が貧弱で、そして泥炭地や地域社会との対立がある地域の植林に大きく依存しているため、SMG/APP社には、現在あるパルプ工場への持続可能な植林木の供給源さえない^{36, 37, 38}。科学者たちは、泥炭地における植林開発が非持続可能と考えられることを指摘してきた^{39, 40, 41}。なぜなら、泥炭地から水を抜き続けると、ほんの数回の植林サイクルで土地が使えなくなるからだ。スマトラのように海に近い泥炭地の場合、伐採許可地は海水に浸されてしまうのだ。アイズ・オン・ザ・フォレストの計算では、同社に木材を供給しているリアウ州内の伐採許可地の77%（76万ヘクタール近く）が泥炭地にある。同社の木材供給会社には、リアウ州以外にも多くの泥炭地に伐採許可地があり、これらのすべてが、そう遠くない未来に木材の供給を停止するだろう。

2011年初め、ビジネス・インドネシア紙は、SMG/APP社がパプアに50万ヘクタールのパルプ材植林の開発を計画しており、南スマトラ州と東カリマンタン州にそれぞれ年間のパルプ生産能力200万トンの2つの新しいパルプ工場を2017年までに建設することを報じた^{42, 43}。しかし同社は、この新しい工場のために持続可能な植林木の供給があることを示していない。新工場操業のために、さらに多くの自然林が伐採されるであろう。

2.3. SMG/APP社は、破壊的な生物多様性の喪失を引き起こしている

アイズ・オン・ザ・フォレストは、主にリアウ州の調査地域（地図 1）内にある以下の 120 万ヘクタール近くの SMG/APP 社に関連する伐採許可地について、政府の伐採許可地のデータの分析と独自の衛星画像解析、現地調査を行った結果、以下のことが判明した。

- リアウ州の 94 万ヘクタール近くの産業用植林地（HTI）、および皆伐が許可される択伐用伐採許可地（HPH）の約 4 万 5000 ヘクタール（Mutiar Sabuk Khatulistiwa 社）が、SMG/APP 社のインダキアット工場に混交熱帯広葉樹材（MTH）を供給したか、今後供給する。
- ジャンビ州内のブキ・ティガプル（BTP）景観における 20 万ヘクタール近くの産業用植林地（HTI）⁴⁴が、同社のロンタル・パピルス工場に混交熱帯広葉樹材（MTH）を供給したか、今後供給する。



地図 1. アイズ・オン・ザ・フォレストの調査地域における SMG/APP 社に関連する伐採許可地。2008/2009 年時点の自然林（緑）、1995 年以降に消失した自然林（ピンク）。

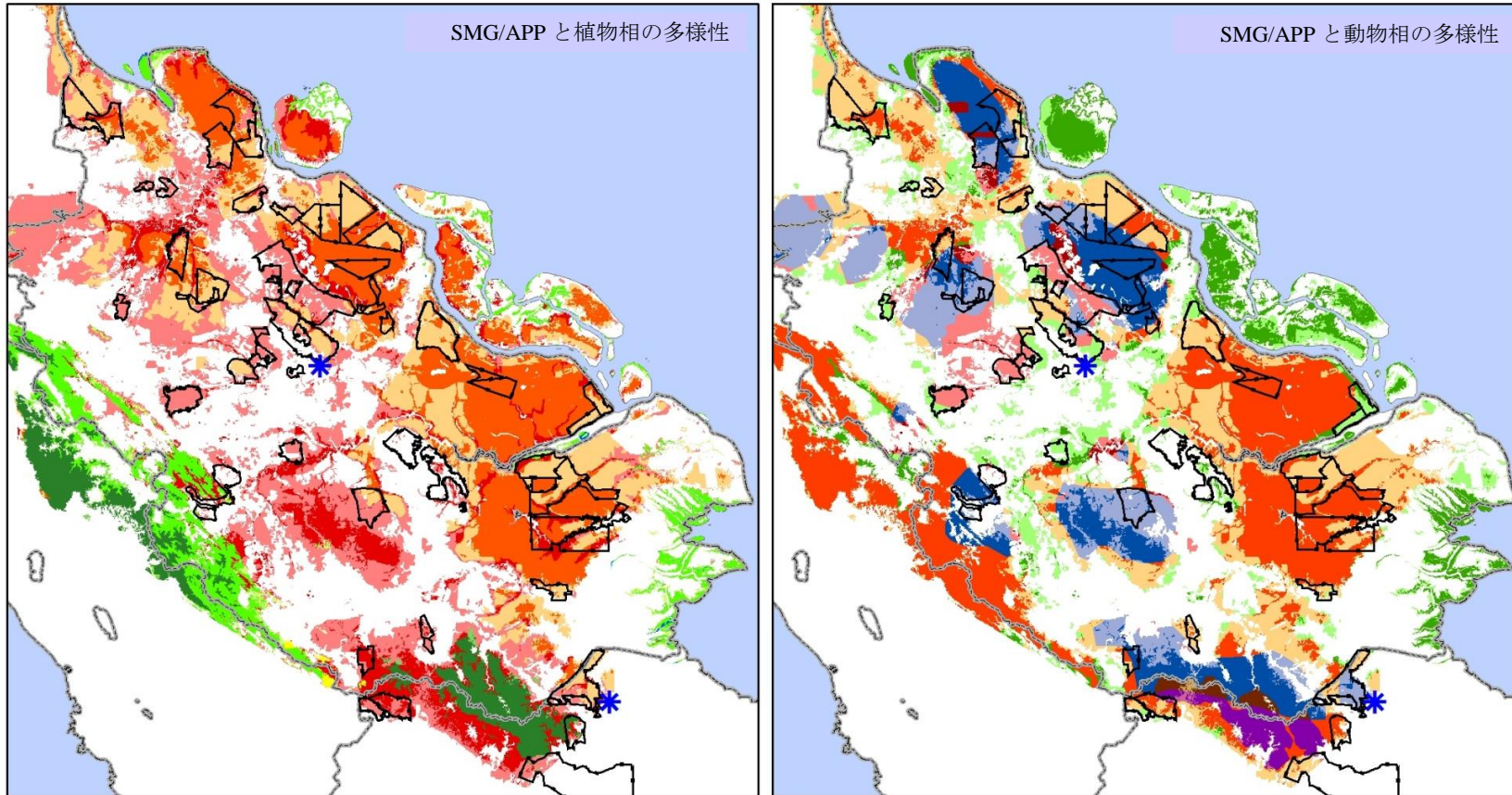
アイズ・オン・ザ・フォレストがデータを分析した、SMG/APP 社の木材供給会社が伐採の許可を取得し始めた 1995 年から 2008/2009 年までの間（地図 2、添付 2）に⁴⁵、同社の木材供給会社は、

- 「極めて危機的状況」にある森林タイプの約 32 万ヘクタールと、「危機的状況」にある森林タイプの 35 万 5000 ヘクタールの破壊を引き起こした。
- 55 万ヘクタールのトラ、24 万ヘクタールのゾウ、1500 ヘクタールのオランウータンの生息する森林の破壊を引き起こした。IUCN（世界自然保護連合）は、これら 3 種のすべてを絶滅のおそれをもっとも高い「近絶滅種（CR）」として記載している⁴⁶。

この調査地域内の伐採許可地における SMG/APP 社の操業が、今も脅かしているものは、

- 「極めて危機的状況」にある森林タイプの約 10 万ヘクタールと、「危機的状況」にある森林タイプの 21 万ヘクタール、および、
- 約 32 万ヘクタールのトラ、12 万ヘクタールのゾウ、2,000 ヘクタールのオランウータンが生息する森林である。

しかし、これは現場で起きていることの一部に過ぎない。SMG/APP 社は、「パルプ原料の供給会社は、総計 250 万ヘクタールの土地を管理している⁴⁷」と述べている。これは、アイズ・オン・ザ・フォレストがこの報告書で分析している地域の 2 倍以上である。さらに同社は、「管理している」という土地以外の混交熱帯広葉樹材（MTH）もパルプにしてきた。したがって、同社の影響や自然の熱帯林の破壊は、今回のこの限定された調査地域に基づいた報告よりはるかに大きい。



地図 2. SMG/APP 社の伐採許可地と、生態学的植物相の多様性とそれぞれの消滅リスク⁴⁸(左)およびスマトラトラ、ゾウ、オランウータンの生息域(右)の区分別に示した 1990 年代半ばから 2008/2009 年までに消失した自然林。

SMG/APP社の木材供給会社は、リアウ州の8つの自然林景観のうち7つを皆伐してきた(地図1、2)。

テッソ・ニロは、極めて危機的状況にある乾燥低地林が最後に残る地域である。1985年以降、乾燥低地林は、元来の面積の90%以上が失われた⁴⁹。この地域は、世界でもっとも多様な維管束植物の植生があり⁵⁰、絶滅のおそれの高いトラやゾウ、その他の多くの種の生息地である⁵¹。SMG/APP社は、自らの伐採許可地やこの地域で操業する違法伐採者(2003年⁵²)などの第三者から熱帯木材を調達してきた。自然林や野生生物が「極めて危機的状況」にあるにもかかわらず、同社は、テッソ・ニロの伐採許可地内の最後に残る自然林さえも皆伐し続け、絶滅のおそれが極めて高いトラの生存を脅かしている⁵³。

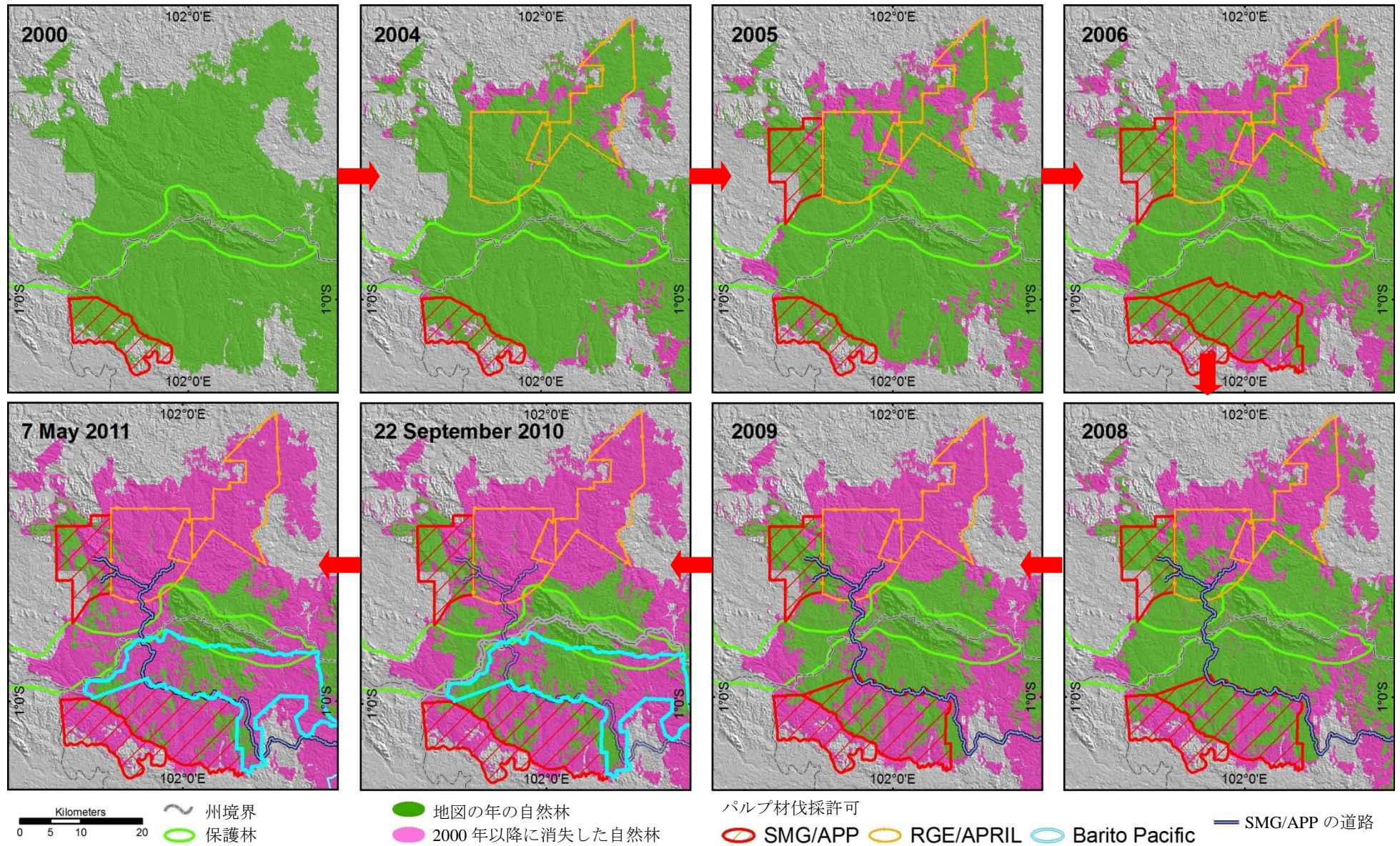
リボには、極めて危機的状況にある淡水湿地や危機状況にある泥炭湿地林があり、現在SMG/APP社やAPRIL社、アブラヤシのプランテーション開発業者による自然林の乱伐によって、非常に分断された状態にある。スマトラトラやゾウの生息地でもあり、どちらも人間と野生生物との軋轢によっても脅かされている⁵⁴。

セネピス、ジラム・シアク・ケシル、カンパール、ケルムタンは、極めて危機的状況にある淡水湿地や危機状況にある泥炭湿地林の地域で、SMG/APP社による泥炭地の排水や自然林の皆伐によって破壊されてきた⁵⁵。これらの地域は、スマトラトラの生息地であり、ワシントン条約(CITES)によって保護されている樹種、ラミンやその他の絶滅の危機にある動植物が生息する。同社は、2011年もセネピス、カンパール、ケルムタンから混交熱帯広葉樹材(MTH)を調達し続けた(第3章を参照)。

ブキ・ティガブルには、極めて危機的状況にある乾燥低地林があり、1985年以降、元来の面積の約80%が失われた⁵⁶。世界の科学者たちは、この地域をトラの生存に不可欠な景観の世界トップ20のひとつとし⁵⁷、インドネシア政府もトラの最優先保護地域としている⁵⁸。この地域の森林には、スマトラゾウの最も大きな群れの2つが生息し、スマトラオランウータンの個体群の再導入が唯一成功している場所でもある。2011年2月から4月まで、林業省とWWFがこの景観内の2万ヘクタールの森林内に設置した、動きに反応して自動で撮影するカメラによって、12頭のトラが撮影された⁵⁹。これには、少なくとも4頭の子どもを連れた2頭の母親の姿も写されていた。SMG/APP社は、パルプ生産のために、この地域の豊かな自然林を計画的に標的にしてきた^{60, 61, 62}。2000年から2011年5月7日まで、この「12頭のトラの森」周辺の森林減少を経年的に分析した結果、同社とその競争相手であるAPRIL社による自然林の皆伐によって、生息可能な森林地帯が急速に縮小したことが明らかになった。この景観の森林を切り開くSMG/APP社の大規模な操業用道路は、多くの不法な土地占拠の原因ともなった(地図3)。どちらも、この地域のトラの個体群を、分断により小さく残された自然林の中に押し込める結果となった(第3章を参照)。



写真1.2. 乾燥した葉で遊ぶ2頭のトラの子ども(左)と、母トラと2頭の子ども(右)⁶³。



地図 3. ブキ・ティガプルの「12頭のトラの森」地域における2000年から2011年までのランドサットおよびSPOT衛星画像解析による森林減少と、SMG/APP社およびAPRIL社の伐採許可地、SMG/APP社の伐採道路。

2.4. SMG/APP社は大量の炭素を放出し、その正反対の報告をしている

1990年代半ばから2008/2009年までに（地図4）、この調査地域内におけるSMG/APP社の木材供給会社は、

- 約37万ヘクタールの「樹冠密度の高い森林（林冠閉鎖率70～100%）」、および21万ヘクタールの「中程度の樹冠密度の森林（同40～70%）」の自然の熱帯林の破壊を招いた。あわせると、伐採許可地内で失われた全森林の85%を占める（地図4左）。
- 深さ2～4mの泥炭地8万ヘクタールと、深さ4m以上の泥炭地17万ヘクタールにある自然の熱帯林の破壊を招き、少なくともこれらの地域（おそらくさらに多く）の泥炭地からの排水を行った（地図4右）。深さ3m以上の泥炭地にある自然林の皆伐は、政府のいくつかの規制に違反する（第3章の事例3参照）。

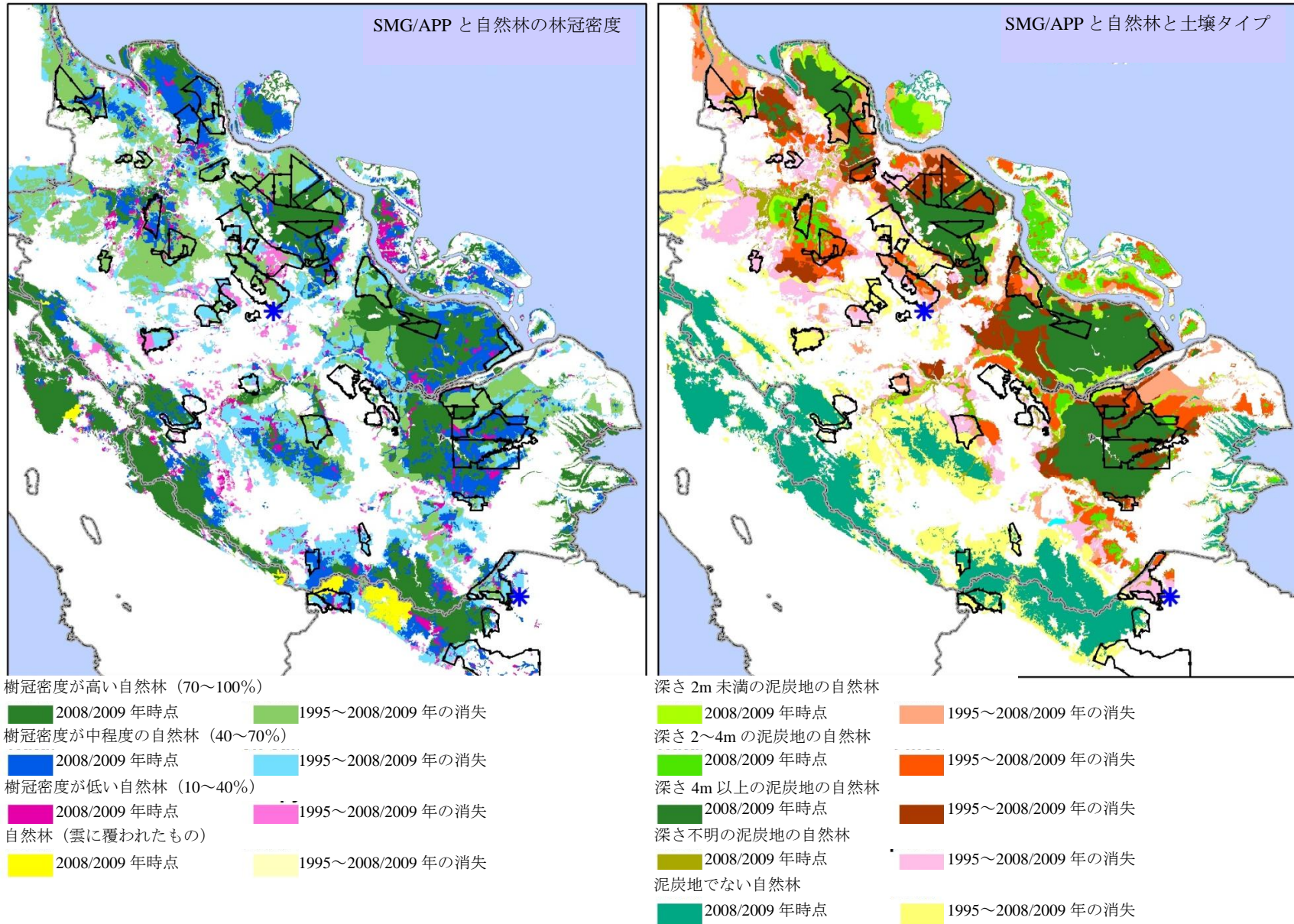
自然林の消失と泥炭地からの排水による排出を含め、SMG/APP社製品の全ライフサイクルの炭素排出を計算すると、スマトラにおける同社の紙生産のカーボン・フットプリントは、紙1トンあたり二酸化炭素換算で16～21トンになることがわかった⁶⁴。これは同社が委託したコンサルティング会社、ERMによって発表された0.03トンの550～700倍であり⁶⁵、北米の紙パルプ業界のカーボン・フットプリントの約10倍である⁶⁶。この調査はさらに、同社のインドネシア国内の紙パルプ工場と森林伐採許可地からの排出の合計は二酸化炭素換算で6,700万～8,600万トンであり、2006年でみれば、APP社の紙パルプ生産に関係する排出量は、世界の165カ国の排出量を上回ると結論づけている⁶⁷。

2000年以降、SMG/APP社への木材供給は、セネピス、リボ、ジラム・シアク・ケシル、カンパール、ケルムタンなどの泥炭地の自然林を皆伐したものが大部分を占めるようになり⁶⁸、その中には、1ヘクタールあたり5,000トン以上の炭素を含む、非常に深い泥炭地も含まれていた。製紙産業が自然林を皆伐するためにリアウの泥炭地からの排水を急速に進めたことによって、炭素を多く含む土壌は酸化が進み、数千年以上もの間蓄積されてきた炭素を排出させることになった。同社がリアウ州の深い泥炭地からの排水を行い、自然林をパルプにしていることは、この州がインドネシアにおいて最も炭素排出量が多いことの最大の理由である⁶⁹。

スマトラ島は、インドネシアで年間12億2000万トンになるLULUCF（土地利用、土地利用変化及び林業部門）に関連したCO₂排出において、間違いなく大量排出者であり⁷⁰、その約60%をリアウ州が占めている⁷¹。この排出の多くは、SMG/APP社とその競争相手のAPRIL社の「メガ・パルプ・プロジェクト」によるものである。2000年代以降、着々と、そしてひそかに、スマトラの泥炭地に侵出してきた。これは主にリアウ州だが島内の他の州も含んでいる。今日、伐採許可地はすでに合計220万ヘクタールとなり、多くが深い泥炭地にあり、急速な排水と拡大が続いている。スマトラの「メガ・パルプ・プロジェクト」は、現在進行中の気候災害であり、中央カリマンタンでひどく評判の悪かった上に、長く機能していなかった「旧メガ・ライス・プロジェクト」をはるかに下回る⁷²。

1990年から2007年までの間に、リアウ州で400万ヘクタール以上の自然林が失われ、その44%が泥炭地にある。リアウ州における自然林の減少と泥炭地からの排水によって排出されるCO₂の量は、年間平均2億2000万トンと推測されており、京都議定書の付属書Iに分類されるすべての国の第一約束期間（2008～2012年）の年間温室効果ガス排出削減目標の合計の約4分の1（24%）に相当する⁷³。

アイズ・オン・ザ・フォレスト⁷⁴は、SMG/APP社とAPRIL社の2008/2009年時点での伐採許可地には、リアウ州に残る自然林が、最大80万ヘクタール（31%）あったと推測している。そしてその多くは深い泥炭地にある。もし両社がパルプ材の植林を開発するために、これらの森林を皆伐し、炭素が大量に含まれている泥炭地からの排水を行えば、リアウ州の年間排出量は、（過去の水準に比べて⁷⁵）15%増加し、ほぼ年間5億トンになるだろう⁷⁶。これはユドヨノ大統領がインドネシアの排出量を26%（7億5000万トン）削減することを公約し、REDDプラスの国家戦略において林業部門全体から4億トンの削減を目標にしている期間と重複する⁷⁷。



地図 4. SMG/APP 社の木材供給会社の伐採許可地と 1990 年代半ばから 2008/2009 年までに消失した自然林、および林冠密度⁷⁸(左)および土壌のタイプ (泥炭地以外と泥炭地の深さ別で区分)⁷⁹との関係。

3. SMG/APP社は配慮しているか？

SMG/APP 社の楽観的な広告やプレスリリース、ブログが世界の市場にあふれている。同社は以下のような宣伝をしている。

- 「私たち APP は、環境の監督員としての責任をととても重視しています⁸⁰」
- 「APP は常に、操業において持続可能性の維持を使命としています⁸¹」
- 「APP は配慮しています⁸²」

この PR キャンペーンを世界中で展開すると同時進行で、SMG/APP 社は多くの国や新しい市場において精力的に強力な販売ネットワークの構築を行ってきた。同社は、気候変動に影響を与え森林破壊を引き起こす製品を、世界中にこれまで以上にあふれさせようとしているのだ。

SMG/APP 社が本当に配慮していることは何か？できるだけ多くの自然林でパルプを生産し続け、偽の自然保護に関する誓約や広告、パートナーシップによって、できるだけ多くの顧客に製品を購入させることである。

WWF インドネシア⁸³や FSC⁸⁴、レインフォレスト・アライアンス⁸⁵や、多くの過去の顧客たちは自然林を守るために SMG/APP 社との建設的に関わることは不可能であり、同社と関わることで自身がインドネシアの自然林でパルプを生産し、泥炭地を破壊し続けるための口実を与えることになるかと判断し、ビジネスを停止した（ボックス 1）。

ボックス 1. SMG/APP 社との取引を断ち切った企業

SMG/APP 社の環境への破壊的な行為、特に同社が引き起こす自然林破壊が自社の企業価値に反すると結論し、同社との取引関係を断ち切ることを公表する顧客企業が増え続けている。

オフィス・デポ⁸⁶、ステイプルズ⁸⁷、クラフト⁸⁸、ユナイテッドステーションナズ⁸⁹、ターゲット⁹⁰、マテル⁹¹、ハズブロ⁹²（アメリカ）、イディサ・パペル（スペイン）⁹³、メトログループ⁹⁴、キク⁹⁵、アディダス⁹⁶、モンブラン⁹⁷、チボー⁹⁸（ドイツ）、ウールワース⁹⁹、メットキャッシュ¹⁰⁰（オーストラリア）、ウェアハウス¹⁰¹（ニュージーランド）、テスコ¹⁰²、セインズベリー¹⁰³、マークス&スパンサー¹⁰⁴（イギリス）、ネスレ¹⁰⁵（スイス）、ユニリーバ¹⁰⁶（オランダ）、リコー、富士ゼロックス¹⁰⁷（日本）、浙江省ホテル協会¹⁰⁸（中国）、グッチ・グループ¹⁰⁹、カルタムンディ¹¹⁰（イタリア）、レゴ¹¹¹（デンマーク）、ルクレール¹¹²（フランス）。

カルフルール¹¹³（フランス）は先日、自社ブランドの製品に使用される同社からの紙の調達を停止すると発表した。

アイズ・オン・ザ・フォレストは、消費者に対して、SMG/APP 社のオーナーが操業の全範囲におけるすべての自然林の皆伐を停止することを約束するだけでなく、市民社会による独立した検証によってそれが確認されるまで、同社や同社のマーケティングにおけるパートナーのグリーンウォッシュを決して信じないよう勧告する。それらの企業は、以下のような単純な手段によって、消費者を煙にまき、混乱させようとしているだけだからである。

1. 彼らは、あなたの信じたいという気持ちやインドネシアに関する知識の不足、経験のなさを利用して、市民社会が提起する問題は真実ではないと思わせようとする。
2. 彼らは、関係のない誓約や成果、努力、実績を強調することによって、あなたの購買に影響を与える極めて重要な情報からあなたの注意をそらそうとする。極めて重要な情報とは、同社が、スマトラにおいて無差別で大規模な泥炭地の開発や自然林の皆伐を続け、ボルネオやパプアでも同じことを始めようとしていることである。

2011 年 10 月 28 日、オランダの広告規制委員会は、SMG/APP 社が環境に配慮している企業であると位置づけようとする同社のテレビや新聞の広告は人々の誤解を招くおそれがあるとの判断を下した¹¹⁴。同広告は上記「1. 背景」に掲載のものである。

事例 1. SMG/APP 社は、トラを保護する会社であるとあなたを誤解させている。

SMG/APP 社の記載:

「私たちは、10 万 6000 ヘクタールのセネピス・トラ保護区、1 万ヘクタールのタマン・ラジャ公園、ユネスコの「人間と生態圏計画」に認定された 17 万 2000 ヘクタールのジラム・シアク・ケチル保護区、および、クタイ・オランウータンプログラムを支援しています。¹¹⁵」

「あなたたちは 1 頭のトラを保護しただけだと人々は言います。それは違います。私が 2004 年にこの会社に就職して以来、いくつかのスマトラトラ保護生息地を確保することに成功してきました。最初の生息地はリアウ州ドゥマイのセネピス・トラ保護区。2 番目はユネスコによって指定されたジラム・シアク・ケチル生態圏保護区。3 番目はジャンビ州のタマン・ラジャ自然保護区。4 番目はカンパール保護区です。次ですか？そのうちに分かりますよ。¹¹⁶」

事実:

SMG/APP 社が保護していると主張するプロジェクト地域のほとんどは、法律によってすでに保護されたものか、別の誰かによって管理されているものである。したがって、同社は、トラ保護のための追加的な援助は何もしていない。同社は関係するすべての伐採許可地内で、実際に法律上、伐採の対象外となる保護地域を合計した面積よりも、多くのトラの生息地を毎年破壊し、パルプを生産してきた。例えば、同社の木材供給会社は元々政府がトラ保護のために提案していたセネピス国立公園の自然林の多くを皆伐し、同社が自ら提案した「セネピス・トラ保護区」の中で、保護すると約束したほんの小さな自然林も皆伐し始めた。さらにユネスコ生態圏保護区内の泥炭地からの排水と、自然林の皆伐をも続けている。

何年もの間、SMG/APP 社は、同じいくつかの「プロジェクト」を宣伝し続けることによって、それらの「プロジェクト」が含まれる、より大きな景観の場所や、その「プロジェクト」区域の内部でさえも、トラの生息する自然林の大規模な破壊を行ってきたことから、人々の目をそらしてきた。

いくつかの NGO は、SMG/APP 社が、同社が宣伝するトラや「プロジェクト」が、実際には何の配慮していないことを示してきた。

- これらの地域のほとんどは、すでに法律によって保護されているか他の企業によって管理されているため、「プロジェクト」自体や「プロジェクト」のトラ保護への意義に対する同社の真の貢献は著しく疑問である。
- 同社の木材供給会社は、セネピス、ジラム・シアク・ケチル、カンパール、ブキ・ティガプル（タマン・ラジャ公園のある場所）エリアの自然林の多くを皆伐し続けており、これらのエリア全体の生態系や生物多様性、さらにエリア内の同社のプロジェクトや同社が保護していると主張するトラの生存を脅かし続けている。

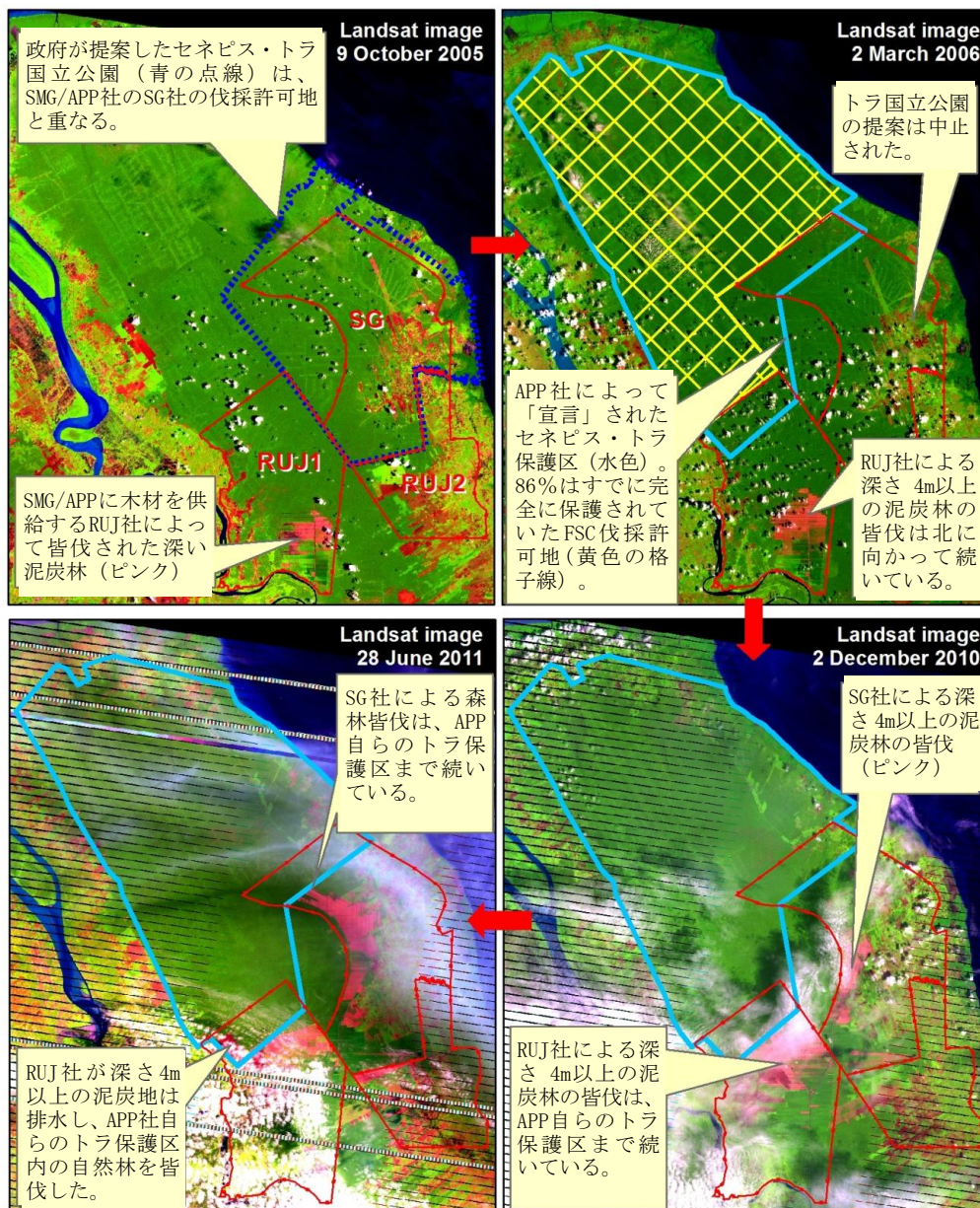
リアウ州とジャンビ州には、SMG/APP 社と APRIL 社の 31 の木材供給会社が管理する 152 万ヘクタールに及ぶ伐採許可地がある。これらについて政府の要求事項であるマクロ及びミクロ区画設定評価や作業計画によると、政府によって求められる「野生生物保護区」として区分されているのは、わずか 5 万 709 ヘクタールだけである。そのうち、セネピスにおいて SMG/APP 社が特別にトラの保護のために指定しているのはたった 3,850 ヘクタールである¹¹⁷。対照的に、私たちの調査では、同社の木材供給会社は、1995 年から 2008/2009 年までに、私たちの調査地域内だけでもトラが生息する自然林を 55 万ヘクタールも破壊してきたことが明らかになっており、調査地域外でも、さらなるトラの森の消失を引き起こしたと考えられる。

SMG/APP 社は、同社の保護成果のひとつとして、トラの移送も宣伝している^{118 119}。実際には、同社に生息地を破壊されたトラが、人々を襲うことになったため、トラを移動するための資金を提供したというだけのことである。同社がこれらのトラの森を保護していれば、このようなことは起こらずに済むのだ¹²⁰。

セネピス（地図 5）において、SMG/APP 社は、5 つの伐採許可地から自然林材を調達してきた¹²¹。2004

年、リアウ州林業局はリアウ州知事の支持の下、セネピスにトラ保護のための国立公園を提案し、その提案地には同社の木材供給会社、Suntara Gajapati (SG) 社の伐採許可地が含まれていた¹²²。WWF¹²³の調査によって、この提案された国立公園によってトラの生息地が保護されることを SMG/APP 社が阻んだようであることが明らかになった。まず、この国立公園の構想が突然消えた。そしてその代わりに、代替となる同社独自の 10 万 6,081 ヘクタールの「セネピス・トラ保護区」を宣伝し始めた¹²⁴。不思議なことに、新しく保護されることになった地域からは、Suntara Gajapati (SG) 社の伐採許可地の大部分が外された。そのうえ、「セネピス・トラ保護区」のほとんどは、APP 社とは関連のない Diamond Raya Timber 社が所有する、FSC 森林認証を取得している伐採許可地であることから、トラは、すでに完全に保護されている。2011 年のグリーンノミクス¹²⁵の調査によって、SMG/APP 社の Suntara Gajapati (SG) 社の伐採許可地に関して、政府によって求められたマクロ及びマイクロ区画設定評価と作業計画によると、実際には、SMG/APP 社のトラ保護区には、伐採許可地の 4% 以下の 3,850 ヘクタールしか割り当てられていないことがわかった。Suntara Gajapati (SG) 社の伐採許可地をトラ保護のための国立公園に指定することでトラの生息地の保護に貢献するのではなく、Suntara Gajapati (SG) 社と、また別の供給会社 Ruas Utama Jaya (RUJ) 社は、4m 以上の深い泥炭地に広がる自然林を皆伐することによって、彼らの伐採許可地内にあるセネピスのトラの生息地を計画的に破壊し続けた。

Ruas Utama Jaya (RUJ) 社は、2011 年 6 月までに、SMG/APP 社独自の「セネピス・トラ保護区」内に保護してきたわずかな自然林 (5,000 ヘクタール以下) さえ皆伐し始めた (地図 5 および 6)。



地図 5. SMG/APP 社が設定したセネピス・トラ保護区と同社による泥炭地林の皆伐の歴史。



地図 6. SMG/APP 社の木材供給会社 Ruas Utama Jaya (RUJ) 社が 2011 年 6 月と 10 月に SMG/APP 社のセネピス・トラ保護区内で行った泥炭の排水と大規模な自然林の皆伐。右上の地図内に示した写真番号の横の矢印は、写真を撮影した方向。

2009年、アイズ・オン・ザ・フォレストは、1997年以降のリアウ州で人とトラとの間で起こった非常に凶暴な事件の多くが、SMG/APP社によって自然林が皆伐された場所の付近で発生したと報告した。人とトラとの衝突に関して公表されたデータを基にした分析によると、リアウ州で発生したすべての事故245件のうち、少なくとも147件（全体の60%）がセネピス地域で発生しており、27人（49%）の人間と8頭（53%）のトラが犠牲になったことがわかった¹²⁶。しかし、この容赦ない生息地破壊によって被害を受けているのは、トラだけではない。同社による自然林の皆伐に先立って、必ず自然林の存在する泥炭地からの排水が行われるため、この泥炭生態系全体の生存能力や持続可能性が危ぶまれ、膨大な量の温室効果ガスも放出しているのだ。

ブキ・ティガプル-KKIワルシやアイズ・オン・ザ・フォレスト、この景観で活動する他の現地NGOたちは、この「世界優先トラ保護地域」内で、SMG/APP社がいかんにして豊かな自然林を計画的に標的にしてきたかを報告し続け^{127, 128, 129, 130}、同社によって2004年以降、7万5,000ヘクタール以上の自然林が消失したと推測している¹³¹。また2009年、同社はこの景観内に、自然林面積7,000ヘクタールにも満たない「タマン・ラジャ自然保護区」の設置を発表した¹³²。NGOたちは本来、インドネシアの法律を順守すれば「タマン・ラジャ自然保護区」内の森林の多くを皆伐することは不可能なことや^{133, 134}、同社が保護区の周囲の自然林の多くをパルプ生産のため破壊してきたため、この保護区は、同社が主張するような「野生生物の回廊」としての機能を果たせないことを指摘している。

ユネスコのジラム・シアク・ケチル生態圏保護区は、SMG/APP社が「最も重要な保護プログラム¹³⁵」と表現しているが、リアウ州の土地利用計画や様々な規制によって、この深い泥炭地の排水や自然林の皆伐は許可されず、同社が発表する前からすでに保護されていた。同社の関連会社は2000年以前から、保護区の緩衝地帯（バッファー・ゾーン）に指定されている地域の天然の泥炭林を、林業省からの正式な許可なしに違法に皆伐し始めた¹³⁶。アイズ・オン・ザ・フォレスト¹³⁷は、詳細な現地調査と衛星写真の分析に基づいて、2009年にユネスコ生態圏保護区が指定された以降も深い泥炭地からの排水と自然林皆伐によって、同社がジラム・シアク・ケチルの生態系をいかに破壊し続け、膨大で、増え続ける炭素排出の原因となっているかをまとめている。自然林の皆伐の一部は、正式な許可なしに汚職により行われたことが、違法に許可を発行した罪で刑務所に送られた地方の役人らによって証明されている¹³⁸。グリーンミクス¹³⁹は「この生態圏保護区は、SMG/APP社のパルプ材植林供給会社によって大規模な自然林皆伐が行われている最中の景観、という以外の何ものでもない」と述べている。

カンパールにおいて、SMG/APP社は、1990年代末からこの景観内の深い泥炭地の排水と自然林の皆伐を行ってきた。同社とそのパートナーであるカーボン・コンサベーションは、2010年に小さな「カンパール・カーボンリザーブ」プロジェクト¹⁴⁰の「売り込み」を開始し、それをトラ保護プロジェクトとしても宣伝した。アイズ・オン・ザ・フォレストとグリーンミクスは、この地域がとても深い泥炭地で、すでに法律によって保護されていることから、このプロジェクトには追加性がなく、その上、SMG/APP社が、この周辺に広範囲に広がる泥炭生態系内の他の場所で自然林の皆伐と泥炭地からの排水を行ない、大量の炭素を排出しているのは、膨大なリーケージと言えることから、このプロジェクトは炭素クレジットを得るべきではないと報告した¹⁴¹。

事例 2. SMG/APP社は、「保護価値の高い（HCV）」自然林からの木材を自社製品に使用していないとあなたを誤解させている。

SMG/APP社の記載¹:

「APPの原料供給会社は、インドネシア政府によって与えられた合法的な伐採許可に従って、主に劣化したか荒廢地として分類される、最も価値が低い林地とみなされた土地においてパルプ材の植林を行っています。¹⁴²」

「残材を燃やして炭素排出を増やす結果とならないよう、あるいは残材を林床に残すと森林で病気が発生する可能性があるため、政府はそれをパルプや紙の生産など、生産的に利用することを求めています。¹⁴³」

「植林開発に先立ち、「保護価値の高い（HCV）」地域を特定し保護するために、いくつかの環境・社会的評価を行っています。¹⁴⁴」

¹ APPの引用内の下線は、アイズ・オン・ザ・フォレストによる。

「インドネシア政府が定義する「保護価値の高い」地域からのパルプ材が APP の製品に使用されないよう、私たちはパルプや紙の生産のサプライチェーンを念入りに監視しています。」¹⁴⁵

事実:

SMG/APP 社は、スマトラの豊かで高密度の熱帯林を皆伐した木材を使用し、それらの自然林には、絶滅のおそれが高くて高いスマトラトラや、危機に瀕する乾燥低地林や泥炭林など、FSC が定義する「高い保護価値 (HCV)」や、多様な利害関係者が支持するインドネシア版 HCV ツールキットに基づき、独立した評価者により確認された、「高い保護価値 (HCV)」の森林が含まれていた。

SMG/APP 社は、「価値が最も低い林地」や「劣化した」か「荒廃地」が何を意味するかを決して定義しない。同社は、木材供給会社が、樹木が数本しか残っていない、とても開けた土地で彼らがいうところの「残材」しか収穫していないか、木材供給会社がそこに到着したときにはすでに地面に横たわっていた「残材」だけしか収穫していないと、顧客が想像することを望んでいるのだ。

実際には、私たちの衛星画像や現地調査では、一貫して SMG/APP 社の木材供給会社が「高い保護価値 (HCV)」を含む、豊かで高密度の自然林を皆伐していることが明らかになっている (地図 2,3,4)^{146, 147, 148, 149, 150, 151, 152}。同社の木材供給会社による年次伐採計画 (RKT) でさえ、政府に提出した会社のデータによると、公式の木材量平均は 2009 年には 1 ヘクタールあたり 82 m³ (31~152 m³)、2010 年には 95 m³ (31~164 m³) もの高い樹木密度であることを示している¹⁵³。

事実を明確にする。SMG/APP 社が「残材」と呼ぶものは、同社の木材供給会社がそれを切り倒す前は熱帯林だったのである。

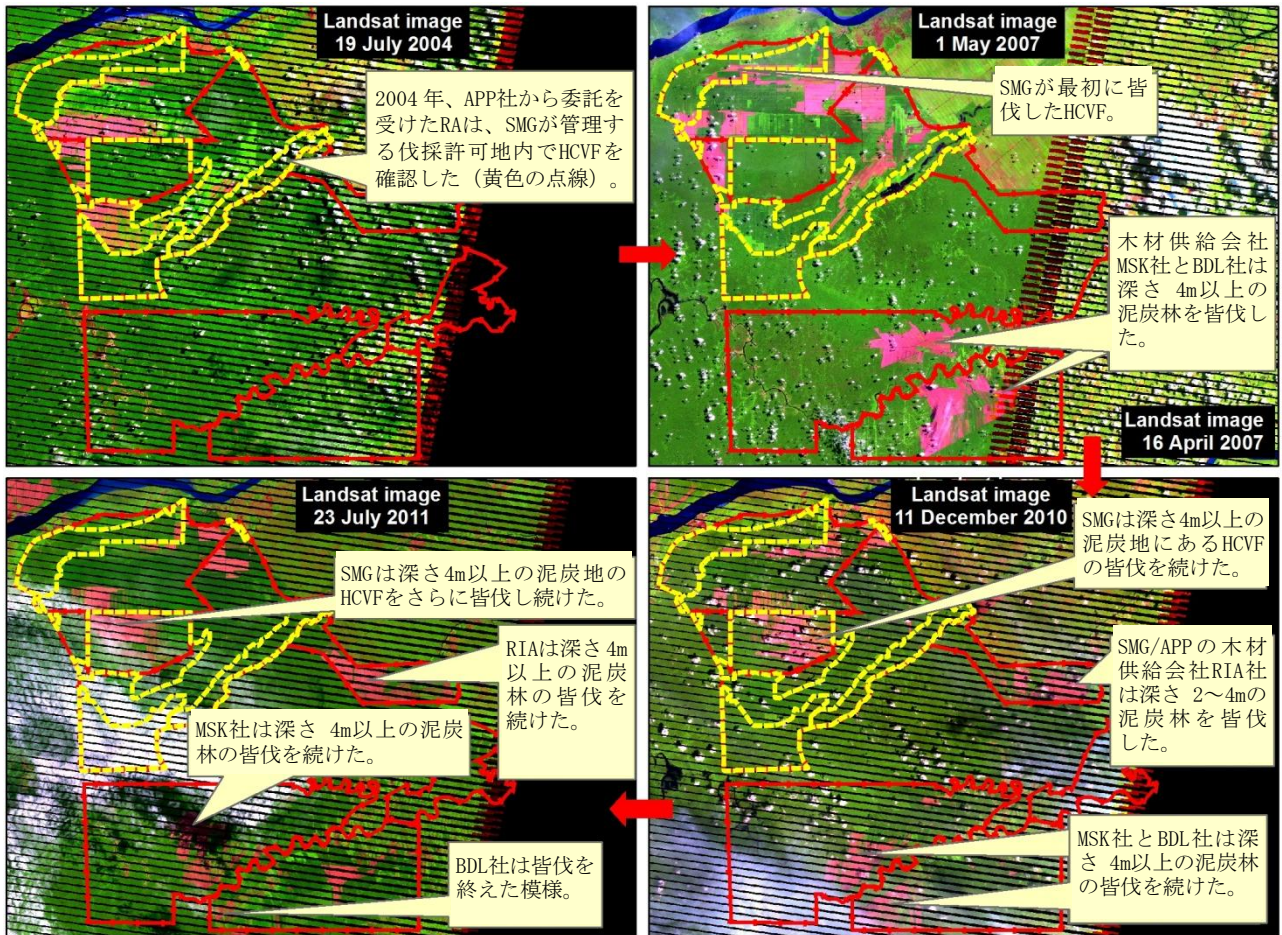
SMG/APP 社があなたに伝えていないこと。それは、インドネシア政府は、スマトラの公式地図において、ほんのわずかな地域しか「原生林」と認めておらず、そのほとんどが保護区内か急な斜面の地域にあることである。ひとたび択伐用伐採許可地 (HPH) として区分された自然林の大部分は、厳密な定義なしに「二次林」や「劣化林」「伐採済み森林」と呼ばれることになる。これらのほとんどが保護されていない自然の乾燥低地林や泥炭林であり、過去に数本の大径木が択伐されただけの、林冠密度の高い森林が多い。これらの森林は生物多様性や炭素貯蔵がまだとても豊富¹⁵⁴であるにも関わらず、現在の法律や規制下では、政府がパルプ材の伐採許可を発行し、皆伐を許可することが可能なのだ。

事実を明確にする。インドネシア政府は生物多様性の価値の高い高密度の熱帯林を皆伐し、パルプ材植林に転換することを許可している。持続可能な操業をするためには、企業は自主的に「保護価値の高い森林 (HCVF)」を保護しなければならない。

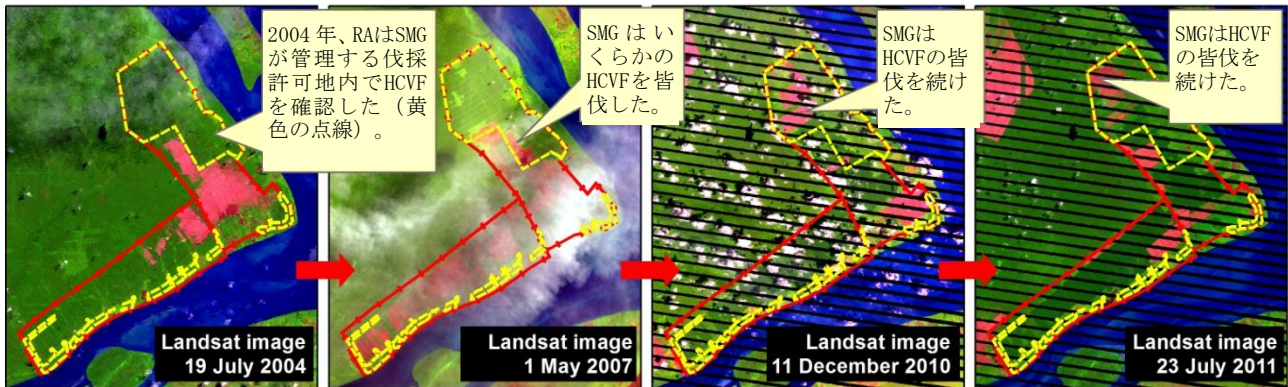
SMG/APP 社があなたに伝えていないこと。それは同社が世界的に採用されている FSC による「保護価値の高い森林 (HCVF)」の定義を用いた、インドネシア版 HCV ツールキットを利用し、独立した透明性のある評価を、木材を調達する自然林に対して行うことを拒否していることである。同社は、「インドネシア政府が定義する「保護価値の高い (HCV) 地域」や、法的に求められる「環境・社会的評価」の適用などの、ほとんど同じ言葉を使用する。しかし、これらは単に、政府が求める AMDAL (環境影響評価) と呼ばれるものや、マクロ及びマイクロ区画設定評価に基づいた森林の評価をしている、ことを意味するのみであり、これらの適用が、現場における「保護価値の高い森林 (HCVF)」の保護にはつながらない。

2004 年、SMG/APP 社は、顧客数社と複数の NGO に促され、その森林管理区域 3 か所においてインドネシア版 HCV ツールキットに基づいた「保護価値の高い森林 (HCVF)」の確認をすることを、レインフォレスト・アライアンス (RA) のスマートウッドプログラムに委託した。さらに同社は、確認されたすべての「保護価値の高い (HCV)」地域を保護し、維持することを約束した。しかしながら、過去の衛星画像の時系列分析によると、同社はこれらの独立した透明性のある形で確認された「保護価値の高い森林 (HCVF)」を皆伐してきたことが明らかになった (地図 7 および 8 で黄色の点線で囲まれた地域)。すべて深さ 4m 以上の泥炭地にあり、法的に保護された森林である。

事実を明確にする。SMG/APP 社は、独立した透明性のある形で確認された「保護価値の高い森林 (HCVF)」さえ保護せず、それらを破壊して紙を生産してきた^{155, 156}。



地図 7. ケルムタンでレインフォレスト・アライアンス (RA) が確認した「保護価値の高い森林 (HCVF)」と他の深い泥炭地の自然林の皆伐。



地図 8. カンパールでレインフォレスト・アライアンス (RA) が確認した「保護価値の高い森林 (HCVF)」と他の深い泥炭地の自然林の皆伐。

事例3. SMG/APP社は、同社がすべての関連する法律や規制に従っており、また同社が確かに持続可能で自然保護に前向きであると、あなたを誤解させている。

SMG/APP社の記載:

「APPは、私たちのすべての紙パルプ製品が合法で持続可能な管理が行われた森林に由来することを保証するために、常に関連する法律や規制に厳格に従ってきました。¹⁵⁷」

「インドネシアの紙パルプ産業にとって、持続可能な森林管理や保全は、インドネシア政府の土地計画と植林開発規制、および持続可能な森林管理の認証要件を厳しく順守することから始まります。これらの基準に『保護価値の高い森林 (HCVF)』の保護や泥炭地の開発規制、植林開発プロセスにおける地域社会の参加が規定されています。¹⁵⁸」

「APP社は、インドネシアの政策や法律、規制に関連し、これらを支持する、信用できる認証基準のすべてを採用する方針を持っており、世界中の顧客やパートナーから期待される最も高い基準を満たすよう常に努力します。私たちは、国際的な TLTV や エコラベル、PEFC などの他の世界的に認められている認証制度の基準や原則を適用し続けます¹⁵⁹」

事実:

数多くの現地調査や分析によって、SMG/APP社がすべての関連する法律や規制には従っていないこと、そして同社は、インドネシアにおいて合法である自然林の皆伐を続けていることが示されている。

合法性は、すべての顧客にとって最低限の必要条件である。多くの顧客は、持続可能性や保全、自然林破壊がないという主張など、合法性の遵守以上のものを求めている。しかしながら、「常に関連する法律や規制に厳格に従ってきました。」というSMG/APP社の主張さえも真実ではない。

SMG/APP社はあなたに以下のことを伝えていない。

- 同社の伐採許可地の多くは、深さ 3m 以上の泥炭地にある自然林を皆伐し、政府の「泥炭地の開発規制」に違反してきた¹⁶⁰。これは、保護地域の管理に関する大統領令第 32/1990 号、生物資源とその生態系の保全に関する法令 1990 年の第 5 号¹⁶¹、土地計画に関する法律第 26/2007 号¹⁶²、現在施行中の国家土地計画第 26/2008 号¹⁶³に違反している。
- インドネシア国家監査委員会(BPK-RI)による 2009 年の監査報告書は、SMG/APP社の木材供給会社が、規制に違反して発行されたパルプ材植林許可と年次伐採許可に基づいて自然林を皆伐したと結論づけている¹⁶⁴。
- インドネシア政府は、同社の木材供給会社に許可を発行する際に汚職を働いた罪で 2 人の政府職員 (Tengku Azmun Jaafar と Asral Rachman) を刑務所に収監し¹⁶⁵、別の 2 人を拘留し (Arwin A.S と Syuhada Tasman)¹⁶⁶、もう一人が現在、インドネシアの汚職撲滅委員会による取り調べを受けている (Burhanudin Husein)¹⁶⁷。同社は、こうした汚職によって得た許可に基づき、自然林を皆伐して同社のパルプ工場に供給し、世界中で販売される紙を生産している^{168, 169, 170, 171, 172}。
- 最近になって、どんな自然林でも皆伐が認められるように林業の法律と規制が変更された。これは泥炭地の開発に関連するものなどの持続可能性や自然保護のための法律や規制と矛盾している。同社の供給会社は、こうした矛盾を上手く利用し、可能な限り多くの自然林を伐採している¹⁷³。真に責任のある、持続可能性や保全に前向きな企業であれば、こうした法律や規制の大志や意図をむしろ尊重し、これらの自然林を保護するだろう。こうした状況では、合法性は持続可能性や自然保護を意味しない。

SMG/APP社は、SGS社が開発した「木材の合法性とトレーサビリティ検査 (TLTV)」サービスを実施していることや、「Sistem Verifikasi Legalitas Kayu (SVLK: インドネシア国による木材合法性および検査システム)」を採用することによって、自社が合法性の遵守に取り組んでいることを強調している¹⁷⁴。

¹⁷⁵。しかし、「合法性」を順守していることは「持続可能な森林管理」や「保全」を保証するものではない。よって同社が「インドネシアから木材製品を輸入している国々は、SVLK ガイドラインによって認証されたインドネシアの製品は、木材の合法性と持続可能な森林管理の原則に関して最高の基準に従っていると完全に信用するべきだ。これらの基準は、自国の自然林を守り、持続可能な植林経営を義務付ける各国の合法性要件と同等だと受け入れられ、理解されるべきである」¹⁷⁶と述べる根拠はない。

SMG/APP社は、世界で最も信用できる森林認証基準を持つFSCが、2007年にAPP社との関係を断ち切ったことをあなたに伝えていない。「FSC理事会は、APP社と関係することは、FSCの名に注ぎ込まれた好意や信頼を脅かしかねないとの判断を下した。(中略) シナル・マスのAPP社が破壊的な林業に関わることを示す公開情報が十分にある。WWFやグリーンピース、アイズ・オン・ザ・フォレスト、他の多くの独立した情報源からの報告は、同社がFSCの原則と基準に反した林業を活発に行っていることを示している」¹⁷⁷とFSCの理事会は述べている。

結果として、SMG/APP社は現在、その持続可能性を証明できる、独立した信用できる第三者認証を取得していない。

SMG/APP社が頻繁に引き合いに出す認証機関、インドネシア・エコラベル協会 (LEI)、PEFC 森林認証プログラム、EU エコラベル、インドネシア政府の持続可能な生産林管理 (Pengelolaan Hutan Produksi Lestari ; PHPL) 基準^{178, 179}は、持続可能性を保証するものではない。これらにはいずれも、以下を確認するための十分な包括的基準がない^{180, 181, 182}。

1. SMG/APP社が、問題となっている伐採許可地において「保護価値の高い森林 (HCVF)」や泥炭の破壊に関わっている、もしくは「いた」か。
2. それらの制度が認証する数少ない小さな伐採許可地だけでなく、SMG/APP社全体の持続可能性、環境に関する実績、大規模な環境・社会問題。

事例 4. SMG/APP社は、同社が世界の気候に配慮していると、あなたを誤解させている。

SMG/APP社の記載:

「民間企業にも、伐採の一時停止期間中に、自らの持続可能な林業経営の施業やプログラムを評価し前進させる責任があると、私たちも認識しなければなりません。¹⁸³」

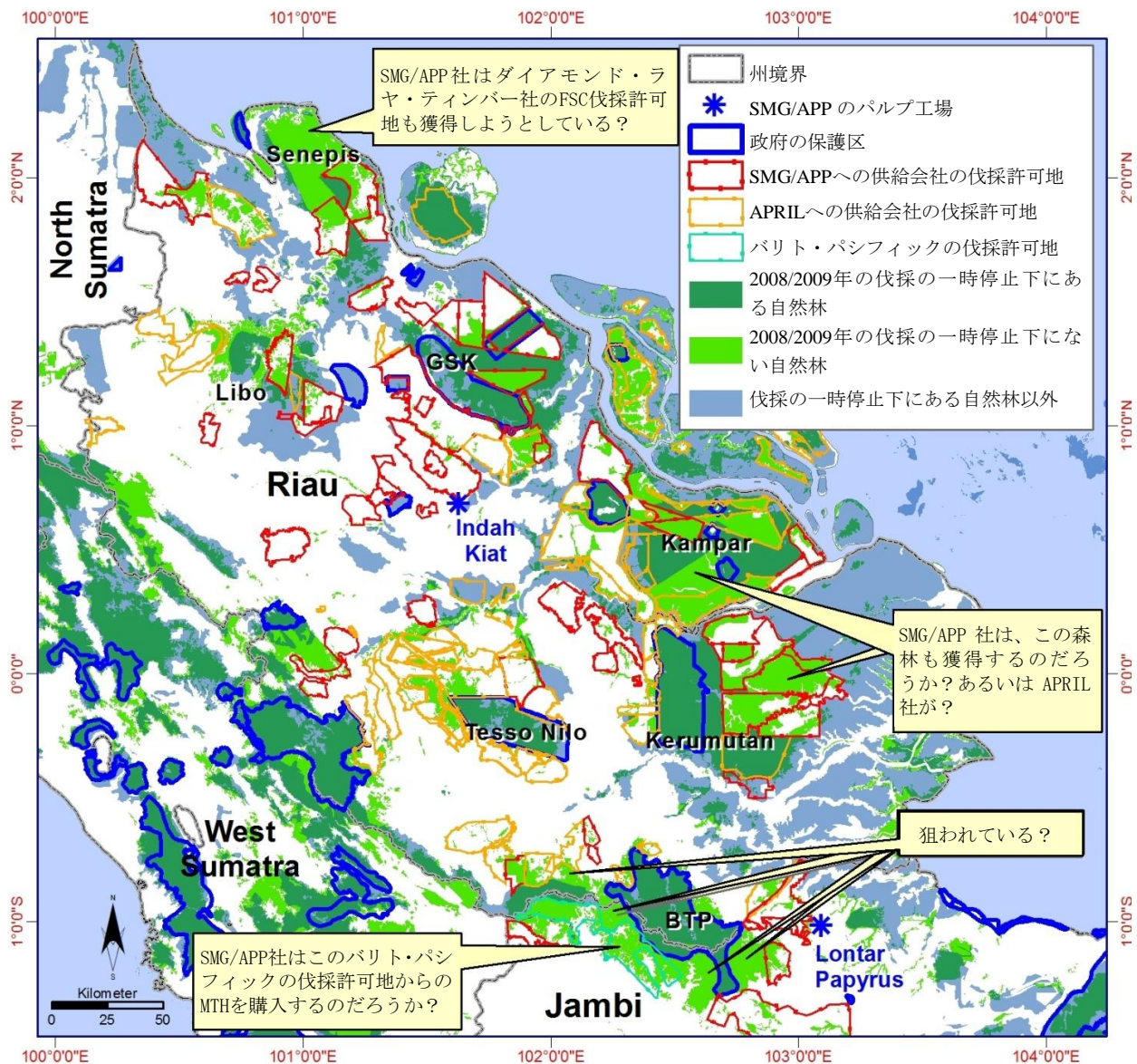
「肝心なことは、私たちは伐採の一時停止を支持すると表明するだけでは不十分ということです。最も大切なのは何をするかです。(中略) アジア・パルプ・アンド・ペーパーは、伐採の一時停止の終了後、より持続可能な林業経営と生産、保全、社会的投資プログラムの将来の明確な展望を持った、より健全なビジネスが姿を現すよう行動していきます。¹⁸⁴」

「インドネシアの多くは改良されていない土地です。再植林は、荒地を事実上のCO₂吸収・貯留地に変える可能性があります。インドネシアは、木を植えるにはすばらしい場所です。APPのパルプ供給会社は、年間2億本以上の木を植えています。¹⁸⁵」

事実:

SMG/APP社は、数百の異なる種からなる数百万の木々の森を破壊し、1種類の幼木を植えた後、5～7年後に植えた木のすべてを伐採する。差し引きすると、これは大量の温暖化効果ガス排出となり、吸収ではない。さらに気候に悪影響を与えるのは、同社が炭素を豊富に含む泥炭地から排水をし、その自然林を破壊して単一樹種植林を続けることによって、数百万トンの炭素を大気中に排出し、世界の気候に影響を与えていることである (第2.3章も参照)。

インドネシア大統領令による伐採の一時停止は、実際のところ、これまでに許可が発行されたことのない、いわゆる原生林や泥炭地における新たな許可の発行を一時的に停止することに過ぎない^{186, 187, 188, 189}。これは、この伐採の一時停止によって守られることになる自然林は、スマトラ島にはほとんどなく、SMG/APP 社への影響は基本的にはないことを意味している（地図 9）。ほとんど例外なく、同グループはすでに取得されている伐採許可地において自然林の破壊と泥炭地の排水を続けるだろう。同社は、一時停止の対象ではない場所であれば、残された自然林の伐採許可を取得することさえできる（地図 9）。



地図 8. SMG/APP 社と APRIL 社の木材供給会社の伐採許可地（赤枠と黄枠）とバリト・パシフィックの伐採許可地（緑枠）、2008/2009 年時点の自然林と 2011 年 6 月 17 日付の林業省 SK.323/Menhut-II/2011 に基づく伐採の一時停止地域（期間中、該当する土地には新たな伐採許可を発行できない）（緑）¹⁹⁰。今回の調査地域内における同社に関連する伐採許可地内の自然林には、伐採の一時停止の対象になっているものはない。

実際のところ、SMG/APP 社が「伐採の一時停止期間を利用することに責任を持つ」と発表してきた活動（再植林、調査など）には、泥炭地の排水や自然林の皆伐、工場での混交熱帯広葉樹材（MTH）を用いたパルプ生産を停止することは含まれていない。しかし、インドネシアにおける REDD の取り組みを少しでも意味あるものにするためには、それらこそが最も必要かつ重要である。

SMG/APP 社は、同社の操業がカーボン・ニュートラルだと思わせようと人々を著しく誤解させてきた。受託業者のひとつである英国コンサルティング会社、ERM は、同社の最も重大な温室効果ガス排出量を含めないなど、不完全な前提に基づき、同社が「カーボン・フットプリントはゼロに近い」と触れ回る手助けをした^{191, 192}。

ERM 社と SMG/APP 社は、パルプ生産のために自然林皆伐がもたらす大量の排出量と、何よりも、同社が植林のために続ける泥炭地からの排水による膨大な排出量を意図的に無視した。かわりに、顧客や投資家、許可を発行する政府機関を侮るように、カーボン・フットプリントの結果をよく見せようと、まさに大量の排出を引き起こしている植林地の、植林部分の炭素吸収量は、計算に加えたのだ¹⁹³（第 2、3 章参照）。熱帯林を、5～7 年ごとに伐採する単一樹種植の植林地に転換し、すぐに廃棄されて吸収した炭素を排出するだけの紙パルプを生産することは、気候変動の緩和のための「再植林」プロジェクトの本来の定義とは大きく異なる。

4. アイズ・オン・ザ・フォレストからSMG/APP社への要求

2011年4月、SMG/APP社は、カーボン・コンサベーションとともに「現在から2020年までの同社のインドネシア国内の操業のすべての側面にわたる持続可能性の原則、目標、遂行計画を達成するためのロードマップ、ビジョン2020¹⁹⁴」を作成していると発表した。そして市民社会に貢献を求めた。アイズ・オン・ザ・フォレストは、この貢献として、以下の簡潔な結論とともにこの報告書を提供する。

SMG/APP社がすべての自然林皆伐と泥炭地からの排水、持続可能な方法で得られる植林地がない状態でパルプ生産能力の拡大することを直ちに停止しなければ、同社の「ビジョン2020」は自然林のない、破壊された泥炭地だらけの景観において実行されるだろう。

またしても発表された持続可能性計画は、SMG/APP社にとって何ら新しいものではない。同社は、同様の発表を、何度も行い、そして破棄してきた。これらが作成され、広報されてきた唯一の目的は、同社が泥炭地の排水や自然林の皆伐を続ける間、同社の顧客や投資家を満足させておくことだけである。

2003年、SMG/APP社は2つのコンサルタント会社に「持続可能な木材供給の評価と計画」を委託し¹⁹⁵、WWFとの同意書に署名し¹⁹⁶、2004年には最終的に「持続可能性行動計画」を作成した。この書類を再考察した後に、WWFは同社との関係を断った。この「計画」のもとになった情報は、信頼のおけないもので、コンサルタント会社でさえ、それらを支持することはできず、同社は結局、この計画を独自の分析に基づいて発表せざるを得なかった。例えば、同社の「計画」は、「保護価値の高い森林(HCVF)」を保護する誓約を否定しただけでなく、「持続可能になるためには」さらに18万ヘクタールの自然林を伐採しなければならないと主張した¹⁹⁷。予想通り、同社はその後、この自らの計画を全く実行せず、発表した18万ヘクタールよりも多くの森林を皆伐した。今回の発表でも、混交熱帯広葉樹材(MTH)を利用しない操業の新しい期限は、都合よく4年先に設定したため、同社は自然林伐採を続けることができる。

SMG/APP社のビジネスパートナーは、今回のカーボン・コンサベーションとの持続可能性に関する発表を、真剣にとらえるべきだろうか？

アイズ・オン・ザ・フォレストは、SMG/APP社に対して、スマトラ、インドネシアの他のすべての島々、そして全世界における自然林の皆伐を即刻停止し、以下のNGOの要求に応じるよう求める。

アイズ・オン・ザ・フォレストは、SMG/APP社の顧客と他のビジネスパートナーに対して、同社の広報活動の宣伝文句を信用しないよう求める。スマトラの自然林と生物は極めて危機的状況にある。責任ある紙パルプの調達を行う人々は、それらの喪失に関わるべきではない。同社からの調達を停止する企業は増え続けている。あなたも責任ある企業たちに加わってください。

ボックス2. 2010年に400以上のインドネシアのNGOによって支持されたインドネシアの紙パルプ会社への要求^{198, 199}

1. 「高い保護価値(HCV)」と炭素価値の高い地域が確認・保護され、政府、業界、市民社会、影響を受けた先住民および自然林に依存する地域住民が、紙原料の生産に適した土地に合意するまで、インドネシアのすべての操業における自然林の伐採、皆伐、転換を直ちに停止し、混交熱帯広葉樹材(MTH)のパルプ工場への調達を一切停止すること。
2. 道路、水路、伐採、木材の運搬、植林によって影響を受けた泥炭地や環境保護に重要な地域の復元のため、期限の定められた計画を政府、業界、市民社会、影響を受けた地域住民と合意し、実施すること。
3. 先住民が慣習的に利用する土地に、影響を与える可能性がある計画または既存の操業に関しては、先住民が持つ「自由で事前の情報に基づく合意(FPIC; Free, prior and informed consent)」を与えるか、もしくは保留するかを決める権利を尊重し、交渉による合意を成立させること。また、先住民以外の住民との交渉による解決と土地に対する公正な補償を成立させること。また、パルプ材植林地や紙パルプ工場の労働者の権利、例えば、十分な賃金、健全な労働条

件、訓練、保険などの安全・保護策を成立させること。

4. 新規または拡大する紙パルプ工場の設備は、水銀や塩素を全く使用しないものにする約束すること。
5. 紙パルプ生産能力の追加や拡大を停止すること。また、現存の植林材生産能力を監査し、現存または拡大した操業が、混交熱帯広葉樹材（MTH）を必要とせず、上記の要求を順守することを確認すること。
6. 上記の要求の実施と継続的厳守を、インドネシアの独立した市民社会グループが受け入れ、独立した第三者機関を採用し監視を受け、その結果を定期的に公表すること。

END

本報告書についての問い合わせ先
アイズ・オン・ザ・フォレスト：Afdhal Mahyuddin
Email: eof@eyesontheforest.or.id

Appendix 1. Area estimate of natural forest cleared to supply IKPP and LPPP.

1. Parameters used to calculate size of forest needed for production of known amounts of pulp

Parameter	Value
1. From air dry ton (adt) pulp to green metric ton (gmt) mixed tropical hardwood (MTH, obtained by clearance of natural forest) wood weight (Jaakko Poyry 1998, quoted by Barr 2001)	4.83
2. From MTH wood weight (gmt) to MTH wood volume (m ³) at pulp mill gate (APP 2004)	1.142
3. From MTH wood volume at pulp mill gate to MTH standing wood volume in natural forest (taking into account harvest, transport and chipping losses) (AMEC, quoted in APP 2004)	1.235
4. Average MTH standing wood volume harvestable per hectare of natural forest (m ³ /ha) as the average volumes listed in RKT 2009 and 2010 issued to SMG/APP wood suppliers (Eyes on the Forest July 2010 and November 2010).	89

2. Estimate of deforestation caused by operation of SMG/APP's Indah Kiat Pulp & Paper (IKPP) mill in Riau Province, Sumatra

Comment: Forest clearance for which the IKPP mill was responsible is likely higher than calculated here. We only calculated forest clearance based on data for Riau province, yet the mill also received fiber from other provinces. None of the data taken from APP publications could be verified and may thus not be correct.

Production Year	[A] Natural forest pulped (ha)	[B] Pulp production capacity or actual production (bold)	[C] % MTH in mill fiber supply	[D] Reference and notes
1984-1987	32,329	105,000	100%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] Pirard & Cossalter (2006) [C] SMG/APP began operations in 1984 and did not have plantations ready for harvest by 1987.
1988	7,436	105,000	92%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] "Since 1989, Indah Kiat has expanded its pulp production capacity from 120,000 tonnes to 1.7 million tonnes per annum" (PT Indah Kiat 1999, quoted by Barr 2000). "Between 1991 and 1999, the group's pulp processing capacity grew from 410,000 tonnes to 2.3 million tonnes per annum" (Ausnewz 1999, quoted by Barr 2000). "the original market pulp line has been modernized, new lines were added in 1989, 1995 and 1997" (AMEC 2001) 1997 data was taken from U.S. & Foreign Commercial Service and U.S. Department of State (1999).
1989-1990	16,996	120,000	92%	
1991-1996	174,205	410,000	92%	
1997-1998	203,239	1,435,000	92%	[C] "Of the 100 million m ³ of wood estimated to have been consumed by the pulp industry during 1988-1999, only eight percent was harvested from plantations" (Indonesian Pulp and Paper Association 1997 and Jaakko Poyry 1998, quoted by Barr 2000) "The acacia wood harvested in 1999 accounted for 20 percent of the fiber consumed by Indah Kiat that year." (Barr 2000)
1999	104,683	1,700,000	80%	
2000 - 2004	569,598	1,850,000	80%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] APP (2004) - not verified company information that may not be correct! [C] "Asia Pulp & Paper Company Ltd. (APP), the holding company of IKPP recently reported that plantation-grown wood accounted for 20 percent of the overall mill supply in 2003 and 2004 and 35 percent in 2005."
2005	89,052	1,866,006	62%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] APP (2008). APP (2009) - not verified company information that may not be correct! [C] For 2005-2007, we used average number of MTH content for each year found in literature. APP (2009) wrote 59% for 2005, 49% for 2006 and 8% for 2007. Cossalter (2006) wrote 65% in 2005. WWF Indonesia (June 2006) wrote 70% for 2006. The MTH figure given by APP for 2007 is low and we estimate zero percent for 2008 because APP could only use MTH on its log yard, could not transport MTH, and had to rely on plantation fibre brought in by boat from other provinces during 2007 and 2008 while APP wood suppliers were being investigated by the police for illegal logging and all MTH transport was prohibited. However, reports exist that many barges with MTH landed at the SMG/APP dock during the police investigation.
2006	87,351	1,907,282	60%	
2007	11,347	1,842,755	8%	
2008	-	2,000,000	0%	
2009	56,659	2,000,000	37%	[A] Government permits allowed SMG/APP wood suppliers to clear 56,659 hectares of natural forest in Riau (Eyes on the Forest July 2010). Forest clearance this year is likely higher as permits issued for other provinces to supply IKPP were not considered. [B] APP (2008) - not verified company information that may not be correct! [C] MTH calculated based on forest clearance and pulp production using above parameter values. MTH content is likely higher because forest clearance is likely higher.
2010	46,151	2,000,000	30%	[A] Government permits allowed SMG/APP wood suppliers to clear 41,789 hectares of natural forest in Riau (Eyes on the Forest November 2010). In addition, SMG/APP were allowed to clear 4,362 hectares based on "self approved RKT" in Riau. Forest clearance this year is likely higher as permits issued for other provinces were not considered. [B] APP (2008) - not verified company information that may not be correct! [C] MTH calculated based on forest clearance and pulp production using above parameter values. MTH content is likely higher because forest clearance is likely higher.
TOTAL	1,399,044			

3. Estimate of deforestation caused by operation of SMG/APP's Lontar Papyrus Pulp & Paper pulp mill in Jambi Province, Sumatra

Comment: None of the data taken from APP publications could be verified and may thus not be correct.

Production Year	[A] Natural forest pulped (ha)	[B] Pulp production capacity or actual production (blue) (ton/year)	[C] % MTH in mill fiber supply	[D] Reference and notes
1994-1999	307,121	665,000	100%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] This mill started its pulp production in 1994. Production figure is based on P.T. Data Consult (May 25, 2005). [C] Eyes on the Forest assumes SMG/APP did not have plantations ready for harvest by until 1999.
2000 - 2004	221,681	720,000	80%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] APP (2004) - not verified company information that may not be correct! [C] Cossalter (2006) as for IKPP in 2003 and 2004.
2005	30,674	642,753	62%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and average 62% MTH content using above parameter values [B] APP (2009) - not verified company information that may not be correct! [C] We used average of 59% by APP (2009) and 65% by Cossalter (2006).
2006	28,168	677,682	54%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values [B] [C] APP (2009) - not verified company information that may not be correct!
2007	51,886	674,081	100%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and 100% MTH content using above parameter values. [B] APP (2009) - not verified company information that may not be correct! [C] APP (2009) writes " <i>The percentage of plantation pulpwood used at Lontar decreased in 2007 due to the need to meet increased demand for plantation pulpwood at the Indah Kiat Perawang mill in Riau</i> ", but also writes that Lontar Papyrus' Mixed Tropical Hardwood Pulpwood was 58%. Eyes on the Forest suspects that all plantation wood from Jambi concessions were used to supply Indah Kiat mill in Jambi during the police embargo on all MTH transport there, hence estimates 100% MTH supply for LPPP. Not verified company information that may not be correct!
2008	55,420	720,000	100%	[A] Forest clearance calculated based on pulp production and MTH content using above parameter values. [B] APP (2004) - not verified company information that may not be correct! [C] Eyes on the Forest believes that all plantation wood from Jambi concessions were used to supply Indah Kiat mill in Jambi, hence estimates 100% MTH supply for LPPP.
2009	?	720,000	?	[B] APP (2004) - not verified company information that may not be correct!
2010	?	720,000	?	[B] APP (2004) - not verified company information that may not be correct!
TOTAL PULPED	694,951			

Appendix 2. Data used for the analysis in Chapter 2

The “study area” analysed for this report included Riau province and the part of Jambi province that surrounds Bukit Tigapuluh national park. Our analysis in Chapter 2 used the following data sets.

1. Concessions

Data on pulpwood (HTI) concessions and selective logging (HPH) concessions were obtained from the Ministry of Forestry (2011) and Riau Forestry Agency (2006, 2011).

2. Natural forest cover

Natural forest was defined as original natural (as opposed to anthropogenic) vegetation dominated by trees with a crown cover of more than 10%. Plantations were not considered forests. Forests were defined exclusively as “natural forests” as it is those who have generated and still represent the country’s wealth of biodiversity, provide many of its environmental services and social values, and host its huge carbon stocks. Natural forest areas were delineated by visual interpretation of Landsat and other optical remote sensing data. Time series analysis of natural forest cover used the following data:

- Natural forest delineated by Setiabudi, WWF Indonesia (see WWF Indonesia 2008) for 1995
- Natural forest delineated by Laumonier, Setiabudi, WWF Indonesia *et al.* (see WWF Indonesia 2010) for 2008/9.

3. Floristic diversity: eco-floristic sectors

Analysis of natural forest cover in eco-floristic sectors in 1995 and 2008/9 and their extinction risk category was based on Laumonier (1983)²⁰⁰, Laumonier *et al.* (1986)²⁰¹, Laumonier *et al.* (1987)²⁰², Laumonier (1990)²⁰³, Laumonier (1997)²⁰⁴, Laumonier *et al.* (2010)²⁰⁵ and WWF Indonesia (2010).

4. Faunal diversity: Tiger, Elephant and Orangutan ranges

- Sumatran tiger distribution 1996/2005 was based on Wikramanayake *et al.* (1998, labeled Tiger Conservation Units)²⁰⁶ and Sanderson *et al.* (2006, labeled Tiger Conservation Landscapes)²⁰⁷.
- Sumatran elephant distribution 1985 was based on Blouch & Symbolon (1985)²⁰⁸.
- Sumatran orangutan distribution 2005-2010 was mapped by Frankfurt Zoological Society²⁰⁹.

5. Peat soil

Peat soil area and depth 2002 was based on Wahyunto *et al.* (2003)²¹⁰ and the three peat-related eco-floristic sectors "Peat Swamp Forest", "Mixed Peat Swamps" and "Peat Swamps" (see above under data set 2).

6. Natural forest canopy density

Three classes of forest canopy density were distinguished by visual interpretation of Landsat images based on WWF Indonesia (2008).

7. Basic data

- Sumatra’s provincial boundary data follow Government of Indonesia’s Bakosurtanal (2008).
- Presidential Moratorium Map was based on the Ministry of Forestry SK. 323/Menhut-II/2011 dated 17 June 2011 (for the text, see http://appgis.dephut.go.id/appgis/moratorium/SK_323_MENHUT.pdf; for the Ministry of Forestry map, see <http://appgis.dephut.go.id/appgis/petamoratorium.html>). The shape file was published by Presidential Working Unit of Supervision and Control of Development (Unit Kerja Presiden Bidang Pengawasan & Pengendalian Pembangunan) at: http://dev.ukp.go.id/web/informasi-publik/cat_view/20-geospasial (downloaded on 29 September 2011).

出典

- ¹ Pirard, R. & Cossalter, C. (2006) The Revival of Industrial Forest Plantations in Indonesia's Kalimantan Provinces. Will they help eliminated fiber shortfalls at Sumatran pulp mills or feed the China market? CIFOR Working Paper No. 37.
- ² Brown, D. W. (1999) Addicted to Rent: Corporate and Spatial Distribution of Forest Resources in Indonesia; Implications for Forest Sustainability and Government Policy." DFID/Indonesia-UK Tropical Forest Management Program Report No. PFM/EC/99/06.
- ³ Barr, C. (2000) Profits on Paper: The Political Economy of Fiber, Finance, and Debt in Indonesia's Pulp and Paper Industries. CIFOR. http://siteresources.worldbank.org/INTINDONESIA/FLEG/20171586/Chriss_Bar.pdf
- ⁴ Potter, L. & Badcock, S. (2001) Case Study 6: The effects of Indonesia's decentralisation on forests and estate crops: case study of Riau province, the original districts of Kampar and Indragiri Hulu. CIFOR Reports on Decentralisation and Forests in Indonesia. http://www.cifor.cgiar.org/Publications/DocumentDownloader?a=d&p=publicationspdf_filesBooksCases%206-7.pdf
- ⁵ Friends of the Earth (May 2001) Report: Paper Tiger, Hidden Dragons: The responsibility of international financial institutions for Indonesian forest destruction, social conflict and the financial crisis of Asia Pulp & Paper. http://www.foe.co.uk/resource/reports/paper_tiger_hidden_dragons.pdf
- ⁶ Barr, C. (2001) Banking on sustainability: structural adjustment and forestry reform in post-Suharto Indonesia. WWF Macroeconomics for Sustainable Development Program Office & CIFOR. http://www.cifor.cgiar.org/Publications/DocumentDownloader?a=d&p=publicationspdf_filesBooksCbarrBanking.pdf
- ⁷ WWF Germany (2003) [Elephant Forests on Sale. Rain forest loss in the Sumatran Tesso Nilo region and the role of European banks and markets.](http://www.wwf.de/mediacenter/press/2003/03/20030320_elephant_forests_on_sale_rain_forest_loss_in_the_sumatran_tesso_nilo_region_and_the_role_of_european_banks_and_markets)
- ⁸ Forest Stewardship Council. FSC Principles and Criteria. <http://www.fsc.org/1093.html>
- ⁹ APP China website. http://www.app.com.cn/english/aboutus_development.html
- ¹⁰ WWF Indonesia (2010) Sumatra's Forests, their Wildlife and the Climate - Windows in Time: 1985, 1990, 2000, and 2009. A quantitative assessment of some of Sumatra's natural resources submitted as technical report by invitation to the National Forestry Council (DKN) and the National Development Planning Agency (BAPPENAS) of Indonesia. Full report for download: http://assets.wwfid.panda.org/downloads/wwf_indonesia_2010_sumatran_forests_wildlife_climate_report_for_dkn_bappena_s.pdf Online summary: <http://www.savesumatra.org/index.php/wherewework/detail/Sumatra>
- ¹¹ WWF Indonesia (October 2006) Monitoring Brief October 2006: Asia Pulp & Paper (APP). Hiding Destruction behind False Advertisements: *APP continues to ignore calls for conservation beyond "legal compliance", and even fails on the latter.* http://www.wwf.or.jp/activity/forest/lib/APP_Oct06_MonitoringRpt.pdf
- ¹² PRWeek (30 September 2010) Asian Pulp & Paper Drafts In Cohn & Wolfe To Fight Greenpeace Accusations. <http://www.prweek.com/news/1031982/Asian-Pulp---Paper-drafts-Cohn---Wolfe-fight-Greenpeace-accusations/>
- ¹³ Environmental Resource Management (2008) Asia Pulp & Paper- Indonesia: Executive Summary of APP's Carbon Footprint Assessment. www.cathaybr.com/pdf/APP_CarbonFootPrint.pdf
- ¹⁴ Laurance, W. *et al.* (25 October 2010) An Open Letter about Scientific Credibility and the Conservation of Tropical Forests. <http://www.eyesontheforest.or.id/attach/Leading%20scientists%20%2825Oct10%29%20Open%20letter%20to%20ITS-WGI-Oxley.pdf>
- ¹⁵ Mongabay.com (1 November 2010) Nobel Prize winner, anti-poverty group, scientists fire back at logging lobbyist. http://news.mongabay.com/2010/1101-oxley_maathai.html
- ¹⁶ The New York Times (30 March 2011) Odd Alliance: Business Lobby and Tea Party. <http://www.nytimes.com/2011/03/31/us/politics/31liberty.html>
- ¹⁷ Asia Pulp & Paper (11 August 2010) Letter to Stakeholders. Getting the Facts Down on Paper. [http://www.asiapulppaper.com/portal/app_portal.nsf/Web-MenuPage/25789CB95E09B9F54725777C0023C42A/\\$FILE/Mazars.pdf](http://www.asiapulppaper.com/portal/app_portal.nsf/Web-MenuPage/25789CB95E09B9F54725777C0023C42A/$FILE/Mazars.pdf)
- ¹⁸ Asia Pulp & Paper (5 April 2011) Asia Pulp & Paper Group Partners with Carbon Conservation on Vision 2020: A Roadmap to Global Leadership in Sustainable Pulp and Paper Production. http://www.csrwire.com/press_releases/31948-Asia-Pulp-Paper-Group-Partners-with-Carbon-Conservation-on-Vision-2020-A-Roadmap-to-Global-Leadership-in-Sustainable-Pulp-and-Paper-Production
- ¹⁹ The Guardian George Monbiot's Blog (2 December 2010) Why is a former Greenpeace activist siding with Indonesia's logging industry? <http://www.guardian.co.uk/environment/georgemonbiot/2010/dec/02/sumatra-rainforest-destruction-patrick-moore>
- ²⁰ Greenbury, A. (3 August 2011) Help Us Save the Sumatran Tiger. <http://www.rainforestrealities.com/2011/08/03/help-us-save-the-sumatran-tiger/>
- ²¹ Indonesian Pulp & Paper Association (9 June 2011) APKI Speaks Out Against Greenpeace Attacks. <http://www.rainforestrealities.com/2011/06/09/apki-speaks-out-against-greenpeace-attacks/>

- ²² Ally Media (2011) Asia Pulp & Paper – Reforestation. <http://www.youtube.com/watch?v=qbXLhkWehgE>
- ²³ <http://www.trademarkia.com/app-cares-wwwasiapulppapercom-77947823.html>
- ²⁴ Asia Pulp & Paper (11 August 2010)
- ²⁵ <http://www.rainforestrealities.com/2011/05/09/open-letter-to-wwf/>
- ²⁶ Ally Media (2011)
- ²⁷ Asia Pulp & Paper (22 February 2011) Asia Pulp & Paper Lays Out Key Milestones On Path to 100 Percent Pulpwood Supply Certification. <http://www.businesswire.com/news/home/20110222007673/en/Asia-Pulp-Paper-Lays-Key-Milestones-Path>
- ²⁷ Greenbury (3 August 2011)
- ²⁸ Asia Pulp & Paper (5 April 2011)
- ²⁹ See many reports available at <http://www.eyesontheforest.or.id> and <http://www.savesumatra.org/index.php/link>
- ³⁰ AMEC (2001) APP Pulp Mills & Sinar Mas Group Forestry Companies. Environmental Compliance & Wood Supply Audit Main Report. Asia Pulp & Paper (2004) APP Sustainability Action Plan. Asia Pulp & Paper (2008) Our Mills. [http://www.asiapulppaper.com/portal/APP_Portal.nsf/Web-MenuPage/B65C5196BF3DD73A4725761C002F65A4/\\$FILE/Our%20Mills.pdf](http://www.asiapulppaper.com/portal/APP_Portal.nsf/Web-MenuPage/B65C5196BF3DD73A4725761C002F65A4/$FILE/Our%20Mills.pdf) Asia Pulp & Paper (2009) 2007 Growing a Sustainable Future. Environmental and Social Sustainability Report for Indonesia. See other sources in the table.
- ³¹ U.S. & Foreign Commercial Service and U.S. Department of State (1999). Indonesia – Pulp and Paper – ISA981101 USDOC, International Trade Administration. <http://ita.doc.gov/td/forestprod/indonesia.htm> Barr (2000). P.T. Data Consult (May 25, 2005) Indonesia feared to become net importer of pulp. (INDUSTRY), published in Indonesian Commercial Newsletter. <http://www.thefreelibrary.com/1.+Indonesia+feared+to+become+net+importer+of+pulp.-a0141997821> Pirard & Cossalter (2006). Cossalter, C. (2006) APP and APRIL's commitments for Sustainable pulpwood plantations. Where do we stand? Draft. http://environment.yale.edu/tfd/uploads/APP_APRIL_25_November_2006.pdf
- ³² Barr (2000)
- ³³ Asia Pulp & Paper (2004)
- ³⁴ Asia Pulp & Paper (May 2007) APP 2005/06 Environment Report. [http://www.asiapulppaper.com/portal/APP_Portal.nsf/Web-MenuPage/1B2BBDDE7FB9B64C4725739B00232E6A/\\$FILE/SR1.PDF](http://www.asiapulppaper.com/portal/APP_Portal.nsf/Web-MenuPage/1B2BBDDE7FB9B64C4725739B00232E6A/$FILE/SR1.PDF)
- ³⁵ Asia Pulp & Paper (22 February 2011)
- ³⁶ Riley, J. (19 April 2008) Peat, Pulp & Paper: Climate Impact of Pulp Tree Plantations on Peatland in Indonesia. <http://www.environmentalpaper.org/documents/Jack%20Rieley.pdf> Rieley & Page (2008)
- ³⁷ Barr, C. (10 April 2008) Indonesia's Pulp & Paper Industry: Overview of Risks and Opportunities. <http://www.environmentalpaper.org/documents/Chris%20Barr%20-%20CIFOR.pdf>
- ³⁸ Obidzinski, K & Dermawan, A. (30 May 2011) CIFOR Forest blog: New round of pulp and paper expansion in Indonesia: What do we know and what do we need to know? <http://blog.cifor.org/2905/new-round-of-pulp-and-paper-expansion-in-indonesia-what-do-we-know-and-what-do-we-need-to-know/>
- ³⁹ Rieley, J.O. & S.E. Page (2008) Carbon Budgets under Different Land Uses on Tropical Peatland. Included in: Rieley, J.O., Banks, C.J. and Page, S.E. (2008) Future of Tropical Peatlands in Southeast Asia as Carbon Pools and Sinks. Papers Presented at the Special Session on Tropical Peatlands at the 13th International Peat Congress, Tullamore, Ireland, 10th June 2008, CARBOPEAT Partnership, International Peat Society and University of Leicester, United Kingdom. http://www.geog.le.ac.uk/carbopeat/media/pdf/tullamorepapers/ipc_tropical_peat_special_session.pdf
- ⁴⁰ Barr (10 April 2008)
- ⁴¹ WWF Indonesia (2010)
- ⁴² Bisnis Indonesia (24 April 2011) Konglomerat Kembangkan Investasi HTI Di Kalimantan Dan Papua. <http://www.bisnis.com/articles/konglomerat-kembangkan-investasi-hti-di-kalimantan-dan-papua>
- ⁴³ Obidzinski & Dermawan (30 May 2011)
- ⁴⁴ KKI Warsi, Frankfurt Zoological Society, Eyes on the Forest and WWF-Indonesia (14 December 2010a) Press Release: Once-Untouched Haven for Tigers, Orangutans, Elephants Being Systematically Targeted by APP/SMG. Sumatran Forest is Last Home of the Indigenous Orang Rimba and Talang Mamak. http://www.wwf.or.id/en/news_facts/press_release/?21160/Once-Untouched-Haven-for-Tigers-Orangutans-Elephants-Being-Systematically-Targeted-by-APPSMG KKI Warsi, Frankfurt Zoological Society, Eyes on the Forest and WWF-Indonesia (14 December 2010b) Report: Last Chance to Save Bukit Tigapuluh. Sumatran tigers, elephants, orangutans and indigenous tribes face local extinction, along with forest. http://www.wwf.or.id/btp_report_dec10_pdf
- ⁴⁵ Laumonier, Y., Uryu, Y., Stwe, M., Budiman, A., Setiabudi, B. & O. Hadian. (2010) Eco-floristic sectors and deforestation threats in Sumatra: indentifying new conservation area network priorities for ecosystem-based land use planning. Biodiversity Conservation

(2010) 19: 1153-1174. <http://www.springerlink.com/content/c77376k574051178/fulltext.pdf> See also WWF Indonesia (2010).

⁴⁶ IUCN, The International Union for Conservation of Nature and Natural Resources lists Sumatran tiger (*Panthera tigris ssp. sumatrae*), Sumatran elephant (*Elephas maximus ssp. sumatranus*) and Sumatran orangutan (*Pongo abelii*) as critically endangered. Linkie, M., Wibisono, H.T., Martyr, D.J. & Sunarto, S. 2008. *Panthera tigris ssp. sumatrae*. In: IUCN 2011. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2011.2. <<http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/15966/0>, downloaded on 14 November 2011> Gopala, A., Hadian, O., Sunarto, ., Sitompul, A., Williams, A., Leimgruber, P., Chambliss, S.E. & Gunaryadi, D. 2011. *Elephas maximus ssp. sumatranus*. In: IUCN 2011. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2011.2. <<http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/199856/0>, downloaded on 14 November 2011> Singleton, I., Wich, S.A. & Griffiths, M. 2008. *Pongo abelii*. In: IUCN 2011. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2011.2. <<http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/39780/0>, downloaded on 14 November 2011>

⁴⁷ Greenbury, A. (31 January 2011) Asia Pulp and Paper: why activists are wrong over destructive logging allegations. Published at The Ecologist.

⁴⁸ Laumonier et al. (2010). WWF Indonesia (2010)

⁴⁹ Laumonier et al. (2010). WWF Indonesia (2010).

⁵⁰ Gillison, A.N. (2001) Vegetation Survey and Habitat Assessment of the Tesso Nilo Forest Complex. Pekanbaru, Riau Province, Sumatra, Indonesia (27 October – 10 November 2001). WWF Technical Report, WWF, Washington, DC, USA.

⁵¹ Prawiradilaga, D. M. et al. (2003) Survey Report on Biodiversity of Tesso Nilo. May – August 2003. Indonesian Research Centre for Biology-LIPI & WWF Indonesia.

⁵² WWF Indonesia (16 June 2004) Monitoring of Illegal Logging Operations in Riau, Sumatra. Deliveries of Illegally Cut Wood from Proposed Tesso Nilo National Park to APP's Indah Kiat Pulp and Paper Mill in August 2003 and April 2004.

http://www.wwf.or.id/attachments/Monitoring_of_Illegal_Logging.pdf

⁵³ Greenpeace (25 July 2011) Endangered Sumatran tiger dies in trap on APP concession in Indonesia.

<http://www.greenpeace.org/international/en/news/Blogs/makingwaves/endangered-sumatran-tiger-dies-in-trap-on-app/blog/35859/>

⁵⁴ For example, see Eyes on the Forest (4 April 2006) Interactive Map on Elephant Distribution and Conflict in Riau, Sumatra. WWF Indonesia (2006) Riau's Elephants: The 2006 Tragedy.

http://www.wwf.or.id/en/about_wwf/whatwedo/forest_species/where_we_work/tessonilobukittigapuluh/focal_species/elephants/elephant_tragedy/ Eyes on the Forest (18 April 2006) Forests to Paper, Forests to Palm Oil and No Place to Live for Riau's Elephants. http://www.wwf.or.jp/activities/upfiles/EoFElephant18Apr06_.pdf

⁵⁵ For example, see: Eyes on the Forest (30 November 2010) EoF calls on SMG/APP and APRIL to keep their promises: Stop conversion of natural forest and drainage of peat to produce pulp, stop violation of the country's climate commitments.

<http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF%20%2830Nov10%29%20Riau%20RKT%202010%20natural%20forest%20and%20peat%20conversion%20EN%20FINAL.pdf> Eyes on the Forest (8 July 2010) Investigative Report: Business as Usual in Riau, Sumatra: Pulp Industry Continues Clearance of Natural Forest.

http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF_Report_July2010_pulp_industry_continues_clearance%20B.pdf Eyes on the Forest (April 2010) Investigative Report December 2009. Two Asia Pulp & Paper / Sinar Mas Group associated companies continue

clearcutting of deep peatland forest of Kerumutan in Riau Province, Sumatra, threatening peatland forest ecosystems, Sumatra tiger and global climate. http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF_Investigative_Report_April2010_APP_Kerumutan.pdf Eyes on the

Forest (27 July 2009) Fires in APP/Sinar Mas Concessions Add to Region's Haze Woes, Threaten New UN Biosphere Reserve. http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF_PR_Fire_hotspot_final_27_July_2009.pdf Eyes on the Forest (26 March 2008) Eyes on the

Forest to Asia Pulp & Paper: Cease all destruction of one of the world's largest tropical peatland forests – Kampar peninsula in Riau, Sumatra, Indonesia.

<http://eyesontheforest.or.id/attach/Investigative%20Report%20english%20version%20march%202008.pdf>

⁵⁶ Laumonier et al. (2010). WWF Indonesia (2010).

⁵⁷ Sanderson, E., J. Forrest, C. Loucks, J. Ginsberg, E. Dinerstein, J. Seidensticker, P. Leimgruber, M. Songer, A. Heydlauff, T. O'Brien, G. Bryja, S. Klenzendorf, and E. Wikramanayake. 2006. Setting Priorities for the Conservation and Recovery of Wild Tigers: 2005-2015. WCS, WWF, Smithsonian, and NFWF-STF.

⁵⁸ The Jakarta Globe (24 November 2010) Indonesia Joins World Forum Vowing to Save Tigers.

<http://www.thejakartaglobe.com/nvironment/indonesia-joins-world-forum-vowing-to-save-tigers/408341>

⁵⁹ WWF Indonesia (10 May 2011) WWF captures Sumatran Tiger Triplets in forest under imminent threat of clearing.

<http://www.wwf.or.id/index.cfm?uNewsID=22341&uLangID=1>

⁶⁰ KKI Warsi, Frankfurt Zoological Society, Zoological Society of London, PKHS & WWF Indonesia (8 January 2008a) Joint Press Release: APP Forest Clearing Threatens Lives of Local Communities and Endangered Species.

http://www.wwf.or.id/en/news_facts/press_release/?2642/Forest-Clearing-In-Bukit-Tigapuluh-Threatens-Lives-Of-Local-Communities-And-Endangered-Species KKI Warsi, Frankfurt Zoological Society, Zoological Society of London, PKHS & WWF Indonesia (8 January 2008b) Joint Report: Asia Pulp and Paper (APP) Threatens Bukit Tigapuluh Landscape.

http://rafflesia.wwf.or.id/library/attachment/pdf/BTp_Investigation_Jan%202008_draft_FINAL.pdf

- ⁶¹ KKI Warsi *et al.* (14 December 2010a). KKI Warsi *et al.* (14 December 2010b)
- ⁶² WWF and Google Earth (9 May 2011) Video: Saving Bukit Tigapuluh. <http://www.youtube.com/watch?v=qsg6N9p0Vy0>
- ⁶³ WWF Indonesia (10 May 2011) WWF captures Sumatran Tiger Triplets in forest under imminent threat of clearing. <http://www.wwf.or.id/index.cfm?uNewsID=22341&uLangID=1>
- ⁶⁴ Rainforest Action Network and Japan Tropical Forest Action Network (October 2010) Asia Pulp & Paper's Hidden Emissions: Calculating the Real Carbon Footprint of APP's Paper. http://ran.org/sites/default/files/app_hidden_emissions.pdf
- ⁶⁵ Environmental Resource Management (2008)
- ⁶⁶ Worrell *et al.* 2001, quoted by Environmental Resource Management (2008)
- ⁶⁷ Rainforest Action Network and Japan Tropical Forest Action Network (October 2010)
- ⁶⁸ WWF Indonesia (2008) Deforestation, Forest Degradation, Biodiversity Loss and CO2 Emissions in Riau, Sumatra, Indonesia. WWF Indonesia Technical Report, Jakarta, Indonesia. <http://www.worldwildlife.org/who/media/press/2008/WWFPresitem7596.html>
- ⁶⁹ WWF Indonesia (2008). WWF Indonesia (2010). Eyes on the Forest (16 March 2011) Press Release: EoF coalition urges APP and APRIL not to clear 800,000 hectares of natural forests in their concessions. <http://eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=326> Eyes on the Forest (15 March 2011) Impacts of the LoI moratorium on Sumatra's natural forest and peat - an analysis of Riau, Sumatra's deforestation hotspot. Submitted to Dr. Ir. Kuntoro Mangkusubroto, Kepala Unit Kerja Presiden bidang Pengawasan dan Pengendalian Pembangunan (UKP4). <http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF%20%2815Mar11%29%20Impacts%20of%20LoI%20moratorium%20on%20Sumatra%20and%20Riau%20EN%20Submitted.pdf>
- ⁷⁰ The Ministry of Forestry, Republic of Indonesia (2007) Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Indonesia. REDD Methodology and Strategies Summary for Policy Makers. http://www.dephut.go.id/INFORMASI/LITBANG/IFCA/Summary%204%20policy%20makers_final.pdf
- ⁷¹ WWF Indonesia (2008)
- ⁷² WWF Indonesia (2010)
- ⁷³ WWF Indonesia (2008)
- ⁷⁴ Eyes on the Forest (16 March 2011). Eyes on the Forest (15 March 2011)
- ⁷⁵ Riau's reference emission level was around 425 megatons according to the National REDD+ Strategy Draft 1 Revised, available at <http://www.un.or.id/sites/default/files/COMPLETEStranas1RevisedEng%20final%20version.pdf>
- ⁷⁶ If we assume 86 ton CO₂/ha/year of peat emissions from pulpwood plantation on peat, based on Hooijer *et al.* (2010) <http://www.biogeosciences.net/7/1505/2010/bg-7-1505-2010.pdf>, annual CO₂ emissions from these areas could be 61 megatons/year.
- ⁷⁷ Eyes on the Forest (15 March 2011).
- ⁷⁸ WWF Indonesia (2008)
- ⁷⁹ Wahyunto *et al.* (2003)
- ⁸⁰ Asia Pulp & Paper (31 March 2011) Advertisement on a Dutch newspaper, De Groene Amsterdammer. The same advertisement was used in the US and various countries in Europe this year.
- ⁸¹ Asia Pulp & Paper (31 August 2011) Advertisement in a Hong Kong newspaper, the South China Morning Post.
- ⁸² Asia Pulp & Paper (31 March 2011)
- ⁸³ WWF (20 February 2004) Time is running out for APP. http://assets.wwfid.panda.org/downloads/time_is_running_out_4_app.pdf WWF US (20 February 2004) WWF Calls on U.S. Retailers to Demand Paper Giant APP Stop Unsustainable Logging. <http://www.worldwildlife.org/who/media/press/2004/WWFPresitem691.html>
- ⁸⁴ Forest Stewardship Council (December 2007) Forest Stewardship Council dissociates with Asia Pulp and Paper. http://www.fsc.org/fileadmin/web-data/public/document_center/Stakeholder_updates/FSC_dissociates_with_APP-EN.pdf
- ⁸⁵ Rainforest Alliance Public Statement (January 2007) Statement: Termination of Contract to Verify High Conservation Value Forests (HCVF) for APP in Sumatra, Indonesia. <http://www.rainforest-alliance.org/forestry/documents/app.pdf>
- ⁸⁶ Office Depot (2011) Office Depot's industry-leading Global Environmental Strategy. <http://www.officedepot.cc/environment/downloads/2011-environmental-overview.PDF>
- ⁸⁷ The Wall Street Journal (7 February 2008) Green-Minded Staples Ends Ties With Asia Pulp & Paper.
- ⁸⁸ The Jakarta Globe (6 July 2010) Carrefour and Kraft Add To Sinar Mas Group's Woes. <http://www.thejakartaglobe.com/business/carrefour-and-kraft-add-to-sinar-mas-groups-woes/384511>
- ⁸⁹ Forest Ethics (2009) Green Grades 2009. A Report Card on the Paper Practices of the Office Supply Sector. Summary of United Stationers. <http://www.forestethics.ca/downloads/Green-Grades-UnitedStationers-Summary-09.pdf>

- ⁹⁰ Forest Ethics (2009) Green Grades 2009. A Report Card on the Paper Practices of the Office Supply Sector. Summary of Target. <http://www.forestethics.org/downloads/Green-Grades-Target-Summary-09.pdf>
- ⁹¹ Southern California Public Radio (5 October 11) Mattel breaks up with Asia Pulp and Paper after Greenpeace's Barbie-based campaign [UPDATE]. <http://www.scpr.org/news/2011/10/05/29262/mattel-breaks-asia-pulp-and-paper-after-greenpeace/> Greenpeace (5 October 2011) Success: Barbie and Mattel drop deforestation! <http://www.greenpeace.org/international/en/news/Blogs/makingwaves/success-barbie-and-mattel-drop-deforestation/blog/37176/>
- ⁹² Greenpeace (2 November 2011) Toy giant Hasbro latest to introduce tough paper policy following Greenpeace investigation. <http://www.greenpeace.org/usa/en/media-center/news-releases/Hasbro-latest-company-to-drop-rainforest-packaging1/>
- ⁹³ Greenpeace (21 May 2007) El mercado español cierra las puertas al papel procedente de la destrucción de los bosques de Indonesia. <http://www.greenpeace.org/espana/es/news/el-mercado-espa-ol-cierra-las/>
- ⁹⁴ RobinWood (25 August 2004) ROBIN WOOD überzeugt Metro: Handelskonzern will auf Papier aus Regenwaldzerstörung verzichten. <http://www.robinwood.de/german/presse/040825.htm>
- ⁹⁵ RobinWood (31 May 2011) Papiergiant APP verliert weiteren Kunden in Europa. KiK verzichtet auf Schreibpapier aus Indonesian. <http://www.robinwood.de/Newsdetails.13+M52f2807ec82.0.html>
- ⁹⁶ Greenpeace (30 January 2011) Asia Pulp and Paper Awarded Golden Chainsaw. Greenpeace accuses company of being one of worst rainforest destroyers in Indonesia. <http://www.greenpeace.org/international/en/press/releases/Asia-Pulp-and-Paper-Awarded-Golden-Chainsaw/>
- ⁹⁷ Greenpeace (2 November 2011)
- ⁹⁸ Greenpeace (2 November 2011)
- ⁹⁹ PrintWeek (8 August 2008) APP defiant despite losing Woolworths contract over environmental allegations. <http://www.printweek.com/news/838307/APP-defiant-despite-losing-Woolworths-contract-environmental-allegations>
- ¹⁰⁰ Metcash Limited (23 August 2011) IGA Paper Products Sources from Indonesia. <http://www.metcash.com/our-responsibility/in-the-news>
- ¹⁰¹ Greenpeace (2 November 2011)
- ¹⁰² The Guardian George Monbiot's Blog (2 December 2010)
- ¹⁰³ Greenpeace (30 January 2011)
- ¹⁰⁴ Greenpeace (30 January 2011)
- ¹⁰⁵ Greenpeace (June 2011) Sinar Mas under Investigation. How APP is Toying with Extinction. http://www.greenpeace.org/international/Global/international/photos/forests/2011/app/sections/ToyingWithExtinction_Full.pdf
- ¹⁰⁶ Greenpeace (June 2011)
- ¹⁰⁷ WWF Indonesia (20 October 2006) APP Hides Destruction Behind False Advertisements. http://www.wwf.or.id/en/news_facts/press_release/?7460/APP-Hides-Destruction-Behind-False-Advertisements
- ¹⁰⁸ Greenpeace (22 February 2005) Victory for public environmental action as APP withdraws lawsuit. <http://www.greenpeace.org/eastasia/press/releases/forests/2005/victory-for-public-environment/>
- ¹⁰⁹ Mongabay.com (3 November 2009) Gucci drops APP in pledge to save rainforests. <http://news.mongabay.com/2009/1103-hance-gucci.html>
- ¹¹⁰ Greenpeace (2 November 2011)
- ¹¹¹ Ourfutureplanet (16 August 2011) Lego banishes Asia Pulp & Paper due to deforestation link. <http://www.ourfutureplanet.org/news/607-lego-banishes-asia-pulp-a-paper-due-to-deforestation-link>
- ¹¹² GraphiLine.com (21 December 2010) Carrefour et Leclerc déréférent le papetier Asia Pulp and Paper (APP). [http://www.graphiline.com/article/13816/Carrefour-et-Leclerc-dereferent-le-papetier-Asia-Pulp-and-Paper-\(APP\)](http://www.graphiline.com/article/13816/Carrefour-et-Leclerc-dereferent-le-papetier-Asia-Pulp-and-Paper-(APP))
- ¹¹³ The Jakarta Globe (6 July 2010)
- ¹¹⁴ Greenpeace (7 November 2011) Indonesian Rain forest Destroyer Asia Pulp and Paper Loses More Contracts. <http://www.greenpeace.nl/press/Persberichten-2011/Reclame-Code-Commissie-reclames-APP-misleidend/>
- ¹¹⁵ Asia Pulp & Paper (31 March 2011)
- ¹¹⁶ Greenbury (3 August 2011)
- ¹¹⁷ Greenomics (18 May 2011)
- ¹¹⁸ Asia Pulp & Paper (26 October 2011) Sumatran Tiger Conservation Foundation Rescues Another Endangered Tiger, Begins Relocation Process. <http://www.businesswire.com/news/home/20111026007036/en/Sumatran-Tiger-Conservation-Foundation-Rescues-Endangered-Tiger>
- ¹¹⁹ Greenbury (3 August 2011)
- ¹²⁰ Eyes on the Forest (28 October 2011) APP's tiger capture questioned.

<http://www.eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=499>

¹²¹ For example, see Eyes on the Forest (May 2011) Investigative Report. PT Suntura Gaja Pati and PT Ruas Utama Jaya, two affiliated companies to APP/SMG, continue clearcutting of Senepis Sumatran tiger forest, where the group contributes only less than 15 percent area for Senepis Buluhala Sumatran tiger conservation.

http://www.eyesontheforest.or.id/attach/Investigative%20Report%20PT%20SGP%20PT%20RUJ%20Senepis_May%202011.pdf

¹²² Riau Forestry Agency Letter No. 522.1/PR/7518 on 23 August 2004. Riau Governor Letter No. 500/EKBANG/63.18 on 18 October 2004.

¹²³ For example, see WWF Indonesia (October 2006)

¹²⁴ PT Suntura Gajapati Letter Number: 022/SG/VI/2006, dated 22 June 2006.

¹²⁵ Greenomics (18 May 2011)

¹²⁶ Eyes on the Forest (17 March 2009) Press release: Forest clearing by Giant APP/Sinar Mas linked to 12 years of Sumatran tiger, human fatalities. http://eyesontheforest.or.id/attach/EoFRiauTigerConflictPR_17Mar09.pdf Map

http://eyesontheforest.or.id/attach/EoF%20MAP%20for%20%20PR%20on%20APP%20and%20tiger%20conflicts_17Mar09.pdf

¹²⁷ KKI Warsi *et al.* (8 January 2008a). KKI Warsi *et al.* (8 January 2008b).

¹²⁸ KKI Warsi *et al.* (14 December 2010a). KKI Warsi *et al.* (14 December 2010b).

¹²⁹ WWF Indonesia (9 May 2011) WWF captures Sumatran tiger triplets in forest under imminent threat of clearing.

<http://www.wwf.or.id/en/?22341/Video-otomatis-WWF-merekam-induk-dan-anak-harimau-di-habitat-yang-terancam>

¹³⁰ WWF and Google Earth (9 May 2011) Video: Saving Bukit Tigapuluh. <http://www.youtube.com/watch?v=qsg6N9p0Vy0>

¹³¹ KKI Warsi *et al.* (14 December 2010a). KKI Warsi *et al.* (14 December 2010b).

¹³² Asia Pulp & Paper (27 July 2009) APP supports creation of new Taman Raja Nature Reserve in Indonesia.

¹³³ KKI Warsi *et al.* (14 December 2010b)

¹³⁴ Greenomics (November 2011) Reasons behind Asia Pulp and Paper's Taman Raja & Kampar Carbon Reserves.

http://www.greenomics.org/docs/Report_201111_Reasons_Behind_APP's_Reserves.pdf

¹³⁵ Asia Pulp & Paper CNN International Advertorials (December 2009) "Conservation".

<http://www.youtube.com/watch?v=rEyduROW8Sk>

¹³⁶ Eyes on the Forest (30 November 2010). WWF Indonesia (October 2006)

¹³⁷ Eyes on the Forest (30 November 2010). Also see other Eyes on the Forest reports at <http://www.eyesontheforest.or.id>

¹³⁸ Eyes on the Forest (10 November 2010) EoF News: More Riau official sentenced for forestry

graft case. <http://eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=304>

¹³⁹ Greenomics (18 May 2011)

¹⁴⁰ Business Wire (3 December 2010) Carbon Conservation and APP introduce the World's First Pulpwood Plantation to Carbon Reserve REDD-Plus Initiative.

<http://www.businesswire.com/news/home/20101003005120/en/Carbon-Conservation-APPIntroduce-World%E2%80%99s-Pulpwood-Plantation>

¹⁴¹ Eyes on the Forest (30 November 2010). Greenomics (23 November 2010) Pulling the wool over the public's eyes: Asia Pulp & Paper deceives public over "Kampar Carbon Reserve" project.

http://www.greenomics.org/docs/Report_201011_APPdeceivespublicovercarbonproject.pdf Greenomics (November 2011)

¹⁴² <http://www.asiapulppaper.com> "Tackling Climate Change" under Sustainability & CSR section, viewed on 3 August 2010.

¹⁴³ Asia Pulp & Paper (31 August 2011)

¹⁴⁴ <http://www.asiapulppaper.com> "Tackling Climate Change" under Sustainability & CSR section, viewed on 3 August 2010.

¹⁴⁵ Asia Pulp & Paper (31 August 2011)

¹⁴⁶ WWF Indonesia (October 2006)

¹⁴⁷ WWF Indonesia (2008)

¹⁴⁸ Eyes on the Forest (April 2010)

¹⁴⁹ Eyes on the Forest (8 July 2010)

¹⁵⁰ Eyes on the Forest (30 November 2010)

¹⁵¹ KKI Warsi *et al.* (14 December 2010a). KKI Warsi *et al.* (14 December 2010b).

¹⁵² Also see many Eyes on the Forest and other reports collected at <http://www.eyesontheforest.or.id> and

<http://www.savesumatra.org/index.php/link>

¹⁵³ Eyes on the Forest (30 November 2010)

¹⁵⁴ Mongabay.com (18 November 2010) Scientists call upon Indonesia to recognize value of secondary forests.

http://news.mongabay.com/2010/1118-letter_norway_indonesia.html

¹⁵⁵ For example, read Eyes on the Forest (8 July 2010) and Eyes on the Forest (30 November 2010).

¹⁵⁶ Greenomics (18 May 2011) Pulp and Paper Giants Show Abject Lack of Concern for Sumatran Tiger, Despite Aggressive PR Claims. http://www.greenomics.org/docs/Report_201105_Sumatran_Tiger.pdf

¹⁵⁷ Asia Pulp & Paper (31 August 2011)

¹⁵⁸ Asia Pulp & Paper (22 February 2011)

¹⁵⁹ Asia Pulp & Paper (22 February 2011)

¹⁶⁰ For example, read Eyes on the Forest (April 2010), Eyes on the Forest (8 July 2010), Eyes on the Forest (30 November 2010).

¹⁶¹ Act of the Republic of Indonesia No. 5 of 1990 Concerning Conservation of Living Resources and Their Ecosystems. <http://faolex.fao.org/docs/pdf/ins3867.pdf>

¹⁶² Law (UNDANG-UNDANG REPUBLIK INDONESIA) Nomor 26 Tahun 2007 http://landspatial.bappenas.go.id/peraturan/the_file/UU_No26_2007.pdf

¹⁶³ Government Regulation (PERATURAN PEMERINTAH REPUBLIK INDONESIA) Nomor 26 Tahun 2008 http://www.bkprn.org/v2/peraturan/file/PP_26_Tahun_2008.pdf

¹⁶⁴ Greenomics (18 May 2011)

¹⁶⁵ The Jakarta Post (17 September 2008) Pelalawan regent gets 11 years.

<http://www.thejakartapost.com/news/2008/09/17/pelalawan-regent-gets-11-years.html> The Jakarta Post (14 February 2011) Supreme Court rejects former regent's appeal in illegal logging case.

<http://www.thejakartapost.com/news/2011/02/14/supreme-court-rejects-former-regent039s-appeal-illegal-logging-case.html> Eyes on the Forest (10 November 2010) More Riau official sentenced for forestry graft case.

<http://www.eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=304> The Jakarta Globe (19 May 2011a) A Timeline of the Riau Investigation. <http://www.thejakartaglobe.com/nvironment/a-timeline-of-the-riau-investigation/441823>

¹⁶⁶ Eyes on the Forest (26 March 2011) Siak District Head detained over forestry corruption charge.

<http://www.eyesontheforest.or.id/index.php?page=news&action=view&id=328> The Jakarta Post (13 August 2011) Former Siak regent tried for graft. <http://www.thejakartapost.com/news/2011/08/13/former-siak-regent-tried-graft.html> Eyes on the Forest (16 August 2011) Siak District Head prosecuted in Riau. <http://eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=488>

¹⁶⁷ detikNews (12 August 2011) Jadi Tersangka Korupsi Sejak 2008, Bupati kampar Diperiksa KPK.

<http://us.detiknews.com/read/2011/08/12/105450/1702190/10/jadi-tersangka-korupsi-sejak-2008-bupati-kampar-diperiksa-kpk> Riau Pos (12 August 2011) Bupati Kampar diperiksa KPK. <http://www.riaupos.co.id/berita.php?act=full&id=1529&kat=5>

PekanbaruExpress.com (14 September 2011) KPK periksa dan geledah rumah Bupati Kampar Burhanudin

<http://www.pekanbaruexpress.com/korupsi/korupsi/4385-kpk-periksa-dan-geledah-rumah-burhanudin> Nasional inilah.com (15 September 2011) KPK geledah rumah Burhanuddin. <http://nasional.inilah.com/read/detail/1774454/kpk-geledah-rumah-burhanuddin>

¹⁶⁸ The Jakarta Globe (19 May 2011b) How a \$115b Illegal Logging Probe Was Felled. Unanswered Question: Why the sudden end to an apparently watertight two-year police investigation into 14 pulp and paper companies' forest clearance in Riau?

<http://www.thejakartaglobe.com/nvironment/special-report-how-a-115b-illegal-logging-probe-was-felled/441679>

¹⁶⁹ The Jakarta Globe (19 May 2011a)

¹⁷⁰ The Jakarta Globe (19 May 2011c) KPK Vows to Pursue Logging 'Cold Cases'

<http://www.thejakartaglobe.com/news/kpk-vows-to-pursue-logging-cold-cases/441684>

¹⁷¹ The Jakarta Post (14 June 2011) Police resume probes into 14 timber firms.

<http://www.thejakartapost.com/news/2011/06/13/police-resume-probes-14-timber-firms.html>

¹⁷² See also articles by Eyes on the Forest, for example, Eyes on the Forest (27 July 2005) WWF, Walhi, Jikalahari: "Logging Moratorium for Companies with Questionable Industrial Timber Plantation Licenses".

<http://www.eyesontheforest.or.id/?page=news&action=view&id=12> Eyes on the Forest (April 2010). Eyes on the Forest (8 July 2010). Eyes on the Forest (30 November 2010).

¹⁷³ Eyes on the Forest (8 July 2010).

¹⁷⁴ Asia Pulp & Paper (22 February 2011)

¹⁷⁵ Asia Pulp & Paper (10 March 2011) Asia Pulp & Paper Joins Indonesian Associations Pledging 100 Percent Industry Adherence to National Wood Legality Laws. Indonesian Industry Associations Calls on Governments Worldwide to Recognize SVLK Certification Standards in National Procurement Policies.

<http://eon.businesswire.com/news/eon/20110310005512/en/Asia-Pulp-%26-Paper/APP/Indonesia>

¹⁷⁶ Asia Pulp & Paper (10 March 2011)

¹⁷⁷ Forest Stewardship Council (December 2007) Forest Stewardship Council dissociates with Asia Pulp and Paper.

http://www.fsc.org/fileadmin/web-data/public/document_center/Stakeholder_updates/FSC_dissociates_with_APP-EN.pdf

- ¹⁷⁸ Asia Pulp & Paper (22 February 2011)
- ¹⁷⁹ Asia Pulp & Paper (16 November 2011) Asia Pulp & Paper in ‘Full Compliance’ with EU Ecolabel. European Commission report rules that Pindo Deli products meet Ecolabel standards.
- ¹⁸⁰ On criticisms on LEI, see KKI Warsi, FZS Indonesia Program, PKHS, Jikalauhari, Walhi Riau, Walhi Jambi and WWF Riau (19 November 2009) Indonesian NGOs: Even with LEI certification, APP paper products are unsustainable. <http://www.wwf.or.id/index.cfm?uNewsID=12980&uLangID=1>
- ¹⁸¹ Climate for Ideas, Forests of the World, Dogwood Alliance, Hnuti DUHA, Les Amis de la Terre, Greenpeace, Sierra Club of British Columbia, Suomen Luonnonsuojeluliitto, Netherlands Centre for Indigenous Peoples (September 2011) On The Ground 2011 The controversies of PEFC and SFI. http://www.greenpeace.org/international/Global/international/publications/forests/On%20The%20Ground%2017_10_11.pdf
- ¹⁸² FERN (9 April 2010) EU Ecolabel allows forest destruction – the case of Pindo Deli. http://www.fern.org/sites/fern.org/files/FERN_PindoDeli-final_0.pdf
- ¹⁸³ Greenbury, A. (20 May 2011) Taking action to make the most of the Moratorium. <http://www.rainforestrealities.com/2011/05/20/taking-action-to-make-the-most-of-the-moratorium/>
- ¹⁸⁴ Greenbury (20 May 2011).
- ¹⁸⁵ Asia Pulp & Paper (2011) TV commercial on Dutch TV, STER.
- ¹⁸⁶ CIFOR Forest Blog (23 May 2011) Indonesia releases Presidential Instructions for logging moratorium. <http://blog.cifor.org/3003/indonesia-releases-presidential-instructions-for-logging-moratorium/>
- ¹⁸⁷ Eyes on the Forest (16 March 2011). Eyes on the Forest (15 March 2011).
- ¹⁸⁸ Muhammad Teguh Surya (20 June 2011) Presidential order vs. forest conversion moratorium. Opinion published by The Jakarta Post. <http://www.thejakartapost.com/news/2011/06/20/presidential-order-vs-forest-conversion-moratorium.html>
- ¹⁸⁹ Red-monitor (14 June 2011) NGOs criticize Indonesia’s “moratorium”. <http://www.redd-monitor.org/2011/06/14/ngos-criticise-indonesias-moratorium/>
- ¹⁹⁰ http://www.dephut.go.id/files/SK_323_MENHUT_2011.pdf
http://appgis.dephut.go.id/appgis/moratorium/SK_323_MENHUT.pdf
- ¹⁹¹ Environmental Resource Management (2008)
- ¹⁹² Asia Pulp & Paper (11 August 2008) APP Indonesia Releases Results of Carbon Footprint Assessment.
- ¹⁹³ Rainforest Action Network and Japan Tropical Forest Action Network (October 2010)
- ¹⁹⁴ Asia Pulp & Paper (5 April 2011)
- ¹⁹⁵ Asia Pulp & Paper (19 June 2002) APP and SMG announce detailed sustainable wood supply assessment & planning project conducted by independent 3rd party.
- ¹⁹⁶ WWF Indonesia (19 August 2003) Asia Pulp and Paper Co. Ltd. and its fiber suppliers, the Sinar Mas Group forestry companies Letter of Intent, Jakarta, Indonesia. http://assets.wwfid.panda.org/downloads/letter_of_intent_final.pdf
- ¹⁹⁷ WWF (20 February 2004) Time is running out for APP. http://assets.wwfid.panda.org/downloads/time_is_running_out_4_app.pdf
WWF US (20 February 2004) WWF Calls on U.S. Retailers to Demand Paper Giant APP Stop Unsustainable Logging. <http://www.worldwildlife.org/who/media/press/2004/WWFPresitem691.html>
- ¹⁹⁸ Eyes on the Forest (10 March 2010) 400 Indonesian NGOs reject APP’s green claims. <http://www.eyesontheforest.or.id/index.php?page=news&action=view&id=269>
- ¹⁹⁹ Indonesian NGOs (10 March 2010) An Open Letter to Customers of and Investors in the Indonesian Pulp and Paper Sector. http://ran.org/sites/default/files/join_id_letter_to_pulp_and_paper_sector.pdf
- ²⁰⁰ Laumonier, Y. (1983) International Map of the Vegetation. “Southern Sumatra”. 1:1.000.000. Institut de la Carte Internationale de la Végétation, Toulouse, France and SEAMEO-BIOTROP, Bogor, Indonesia.
- ²⁰¹ Laumonier, Y., Purnajaya and Setiabudi (1986). International Map of the Vegetation. “Central Sumatra”. 1:1.000.000. Institut de la Carte Internationale de la Végétation, Toulouse, France and SEAMEO-BIOTROP, Bogor, Indonesia.
- ²⁰² Laumonier, Y., Purnajaya, P. and S. Setiabudi (1987). International Map of the Vegetation. “Northern Sumatra”. 1:1.000.000. Institut de la Carte Internationale de la Végétation, Toulouse, France and SEAMEO-BIOTROP, Bogor, Indonesia.
- ²⁰³ Laumonier, Y. (1990) Search for phytogeographic provinces in Sumatra. In: Baas P, Kalkman K, Geesink R (Eds) The plant diversity of Malaysia. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, pp 193–211.
- ²⁰⁴ Laumonier, Y. (1997) The Vegetation and Physiography of Sumatra. Kluwer Academic Publishers.
- ²⁰⁵ Laumonier *et al.* (2010). WWF Indonesia (2010).
- ²⁰⁶ Wikramanayake, E.D., Dinerstein, E., Robinson, J.G., Karanth, U., Rabinowitz, A., Olson, D., Mathew, T., Hedao, P., Conner, M., Hemley, G. and Bolze, D. (1998) An Ecology-Based Method for Defining Priorities for Large Mammal Conservation: The Tiger as Case Study.

²⁰⁷ Sanderson, E., J. Forrest, C. Loucks, J. Ginsberg, E. Dinerstein, J. Seidensticker, P. Leimgruber, M. Songer, A. Heydlauff, T. O'Brien, G. Bryja, S. Klenzendorf, and E. Wikramanayake. 2006. Setting Priorities for the Conservation and Recovery of Wild Tigers: 2005-2015. WCS, WWF, Smithsonian, and NFWF-STF.

²⁰⁸ Blouch & Symbolon (1985) cited in Snatiapillai & Jackson (1990) *The Asian Elephant: An Action Plan for its Conservation*. World Conservation Union/ Species Survival Commission Asian Elephant Specialist Group. Gland, Switzerland.

²⁰⁹ KKI Warsi, Frankfurt Zoological Society, Eyes on the Forest and WWF-Indonesia (14 December 2010b)

²¹⁰ Wahyunto, S. Ritung dan H. Subagjo (2003). Peta Luas Sebaran Lahan Gambut dan Kandungan Karbon di Pulau Sumatera / Maps of Area of Peatland Distribution and Carbon Content in Sumatera, 1990 – 2002. Wetlands International - Indonesia Programme & Wildlife Habitat Canada (WHC).